

阿讃山地開発地域
土地分類基本調査

脇町

5万分の1

国土調査

香川県・徳島県

1977

目 次

序 文

総 論

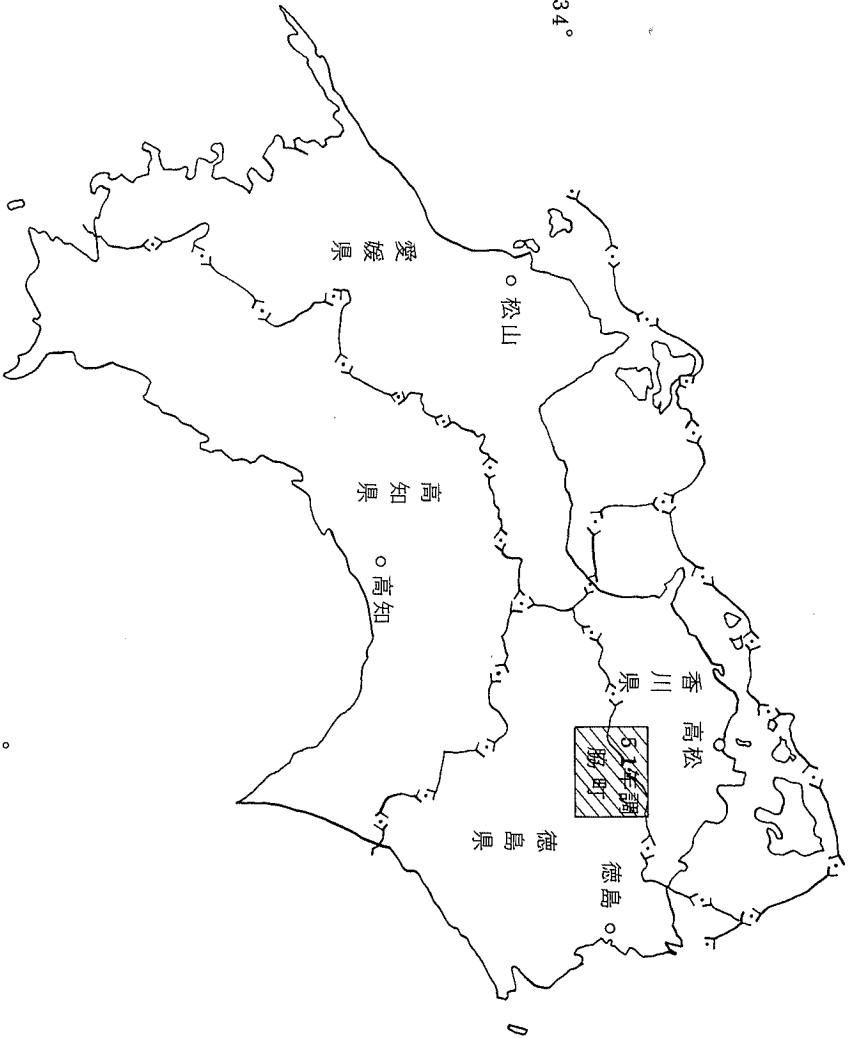
I	位置および行政区画	1
II	地域の特性	3
	1. 地勢, 気象	3
	2. 人口, 世帯数	4
	3. 交通	6
	4. 産業	6
III	開発の現況と方向	13

各 論

I	地形分類	15
	1. 地域概況	15
	2. 地形各論	15
II	表層地質	22
III	土 壤	26
	1. 山地・丘陵地の土壌	26
	2. 台地・低地の土壌	30
IV	傾斜区分	35
V	水系・谷密度	37
VI	土地利用現況	38
VII	防 災	41
VIII	開発規制	50
IX	標高区分	55

132°

34°



134°

調査担当者一覧

地形分類調査	香川大学教育学部	高 桑 紘
	阿南工業高等専門学校	寺 戸 恒 夫
	徳島大学教育学部	阿子島 功
表層地質調査	香川大学農学部	斉 藤 実
	徳島大学教養部	須 鎗 和 己
	徳島大学教育学部	中 川 衷 三
		岩 崎 正 夫
土 壤 調 査	農林省林業試験場四国支場	佐 藤 俊
		井 上 輝一郎
		岩 川 雄 幸
	徳島県林業総合技術センター	谷 淵 正 弘
		宇 水 泰三郎
	香川県農業試験場	真 鍋 武 夫
		大 熊 正 寛
		白 井 美 和
	徳島県農業試験場	後 藤 恭
		川 口 公 男
傾斜区分調査	香川大学教育学部	高 桑 紘
	徳島大学教育学部	阿子島 功
土地利用現況調査	香川大学教育学部	高 桑 紘
	徳島県林業総合技術センター	谷 淵 正 弘
		宇 水 泰三郎
	徳島県農業試験場	後 藤 恭
	川 口 公 男	
水系谷密度調査	香川大学教育学部	高 桑 紘
	徳島大学教育学部	阿子島 功
防災・開発規制調査	香川大学教育学部	高 桑 紘
	徳島県農林水産部耕地課	小 泉 恵 二
標高区分調査	香川大学教育学部	高 桑 紘
	阿南工業高等専門学校	寺 戸 恒 夫

序文

国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査は、地形・地質・土壌等土地の自然的条件を科学的・総合的に調査し、地域の特性に応じた各種開発計画及び土地利用区分の立案に必要な基礎資料を提供するものです。

本調査（協町図幅）は、香川県と徳島県の両県にまたがる関係上、両県が協力し、香川県域は香川県が、徳島県域は徳島県が各々調査実施し、両県が協力し一冊にまとめたものです。

本調査の実施にあたって、御協力をいただいた関係者並びに企画整理をいただいた国土庁土地局国土調査課に対し、深く謝意を表する次第です。

昭和52年3月

香川県 企画部長 平井城一
徳島県 農林水産部長 関口 尚

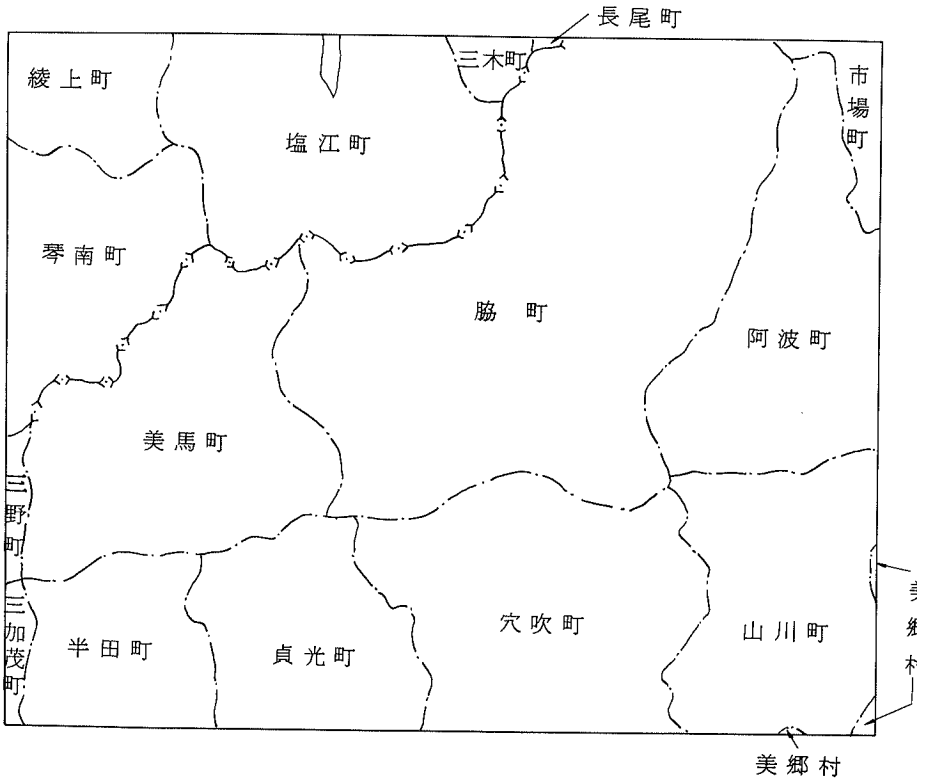
総論

I 位置および行政企画

位置：「脇町」図幅は、讃岐山脈を境に、香川県と徳島県にまたがった図幅である。

図郭辺の経緯度は、東経 $134^{\circ}00'$ ～ $134^{\circ}15'$ 、北緯 $34^{\circ}00'$ ～ $34^{\circ}10'$ であって、図幅内全面積は 426460km^2 である。

行政区画：図幅内行政区画は、第1図に示すとおり香川県区域には、長尾町、三木町、塩江町、綾上町、琴南町、徳島県区域には、三野町、美馬町、脇町、阿波町、市場町、三加茂町、半田町、貞光町、穴吹町、山川町、美郷村の16ヶ町村からなる。



第1図 行政区画図

第 1 表 函 幅 内 町 村 別 面 積

県名	区分 町村名	函 幅 内 面 積		町 村 面 積 B (Km ²)	$\frac{A}{B} \times 100$ (%)
		実数 A (Km ²)	構 成 (%)		
香 川 県	長 尾 町	0,096	0.1	45.88	0.2
	三 木 町	3,805	0.9	77.08	4.9
	塩 江 町	54,793	12.8	80.10	68.4
	綾 上 町	7,526	1.8	71.37	10.6
	琴 南 町	23,631	5.5	83.24	28.4
	計 5	89,851	21.1	357.67	25.1
徳 島 県	三 野 町	0,204	0.1	43.33	0.4
	美 馬 町	46,014	10.8	46.14	100.0
	脇 町	108,580	25.5	110.42	98.3
	阿 波 町	41,052	9.6	48.40	84.8
	市 場 町	5,792	1.4	72.36	8.6
	三 加 茂 町	2,336	0.5	68.09	3.4
	半 田 町	20,255	4.7	51.79	39.1
	貞 光 町	27,283	6.4	45.64	62.0
	穴 吹 町	48,707	11.4	109.18	44.6
	山 川 町	35,328	8.3	43.83	80.6
	美 郷 村	1,058	0.2	50.04	2.1
計 11	336,609	78.9	689.22	48.8	
	合計 16	426,460	100.0	1,046.89	40.7

資料：建設省国土地理院

II 地域の特徴

1 地勢・気象

(1) 地 勢

本図幅の地域は、中央部を吉野川が東流し、南部は四国山地が、また北部は讃岐山脈が各々東西に連なり、この山腹を蛇行削刻して小河川が数多く南北に流れており、徳島・香川県境をなす讃岐山脈の背梁は西より北東へ連なっている。

地質は大別して、吉野川河谷の沖積層・洪積層、阿讃山地の中世代白亜紀の和泉層群、四国山地の結晶片岩層に分類される。

地形は、讃岐山脈の北部及び南部斜面は中・小起伏山地・山麓地に、また四国山地北縁部は中・小起伏山地に、吉野川河谷は台地・扇状地・吉野川氾濫原性低地に分類され、山地は吉野川北岸に比して南岸は急峻である。

(2) 気 象

気象は温暖か雨の瀬戸内気象区に属し、山間部においては若干気象状態に差異はあるが、年平均気温は、塩江町 13.8℃、脇町 15.0℃、年間降雨量は塩江町 1,384 mm、脇町 1,725 mm で比較的晴天に恵まれている。

塩江町、脇町における気象概要は次表のとおり。

第 2 表 気象概況

(塩江町)

月別 区分	年平均 (年合計)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	単 位
		月別最高気温	19.0	7.1	7.5	11.1	19.5	24.6	27.1	29.2	30.7	25.9	21.0	
月別最低気温	8.5	-3.6	-2.0	1.7	7.3	10.6	15.0	20.2	20.9	16.4	11.6	3.5	0.6	℃
月別平均気温	13.8	1.8	2.8	6.6	13.4	17.6	21.1	24.7	25.8	21.2	16.3	9.0	5.5	℃
月別降水日数	163	2	12	13	18	11	15	32	15	13	16	7	9	日
月別降水量	1,384	17	69	68	150	45	90	401	110	232	132	26	44	mm

資料：香川県統計年鑑（昭和 51 年刊行による）

(穴吹町)													
区分	月別 年平均 (年合計)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		月別最高気温	20.4	8.7	8.4	13.7	19.3	23.8	27.6	32.2	31.6	29.8	21.8
月別最低気温	10.3	0.1	-0.2	1.4	8.6	12.0	17.6	21.6	21.4	19.2	13.5	7.4	2.1
月別平均気温	15.0	4.2	4.2	7.4	13.9	17.6	22.1	26.3	25.8	23.5	17.2	11.6	6.3
月別降水日数	13.9	13	11	8	17	11	14	10	12	12	15	8	8
月別降水量	1,725	85.5	88.0	29.5	116.0	46.0	198.0	51.0	637.5	158.0	160.0	114.0	41.5

資料：徳島県気象年報（昭和50年）

2 人口・世帯数

本図幅に關係する町村の人口は昭和40年には184,621人であったが、昭和50年には164,887人となり約11%減少を示している。

これは、本図幅内の第1次産業人口の流出が表われたものであると考えられる。

一方世帯数は、昭和40年には41,515世帯であったが、昭和50年には43,191世帯となり4%の増加を示しており、これは地元での第2次、第3次産業への従事者世帯の増であると考えられる。

第3表 町別人口、世帯数

県名	町名	年別	昭和40年 国勢調査 (A)	昭和45年 国勢調査 (B)	昭和50年 国勢調査 (C)	指数	
						B/A (%)	C/A (%)
香川 県	長尾町	世帯数	2,943	3,092	3,263	105.1	110.9
		人口	12,811	12,366	12,449	96.5	97.2
	三木町	世帯数	5,484	5,774	6,302	105.3	114.9
		人口	24,016	23,308	23,930	97.1	99.6
	塩江町	世帯数	1,416	1,377	1,324	97.2	93.5
		人口	5,860	5,301	4,838	90.5	82.6
	綾上町	世帯数	2,077	2,028	2,023	97.6	97.4
		人口	9,568	8,605	8,172	89.9	85.4
	琴南町	世帯数	1,261	1,207	1,195	95.7	94.8
		人口	5,624	4,932	4,544	87.7	80.8
	計	世帯数	13,181	13,478	14,107	102.3	107.0
		人口	57,879	54,512	53,933	94.2	93.2

県名	町名	年別	昭和40年 国勢調査 (A)	昭和45年 国勢調査 (B)	昭和50年 国勢調査 (C)	指 数	
						B/A (%)	C/A (%)
徳 島 県	三野町	世帯数	1,444	1,442	1,482	99.9	102.6
		人口	6,274	5,694	5,301	90.8	84.5
	美馬町	世帯数	2,538	2,585	2,682	101.9	105.7
		人口	11,117	10,472	10,081	94.2	90.7
	脇町	世帯数	4,641	4,775	5,008	102.9	107.9
		人口	20,051	19,061	19,026	95.1	94.9
	阿波町	世帯数	3,049	3,140	3,330	103.0	109.2
		人口	14,065	13,222	13,511	94.0	96.0
	市場町	世帯数	3,022	3,050	3,074	100.9	101.7
		人口	13,283	12,381	12,084	93.2	91.0
	三加茂町	世帯数	2,405	2,413	2,484	100.3	103.3
		人口	11,183	9,804	9,466	87.7	84.6
	半田町	世帯数	2,232	2,247	2,221	100.7	99.5
		人口	10,114	9,406	8,457	93.0	83.6
	貞光町	世帯数	2,199	2,191	2,209	99.6	100.5
		人口	9,938	8,812	8,121	88.7	81.7
	穴吹町	世帯数	2,956	2,801	2,769	94.8	93.7
		人口	13,575	11,643	10,385	85.8	76.5
	山川町	世帯数	3,030	3,053	3,132	100.8	103.4
		人口	13,155	12,008	11,972	91.3	91.0
美郷村	世帯数	818	779	693	95.2	84.7	
	人口	3,987	3,302	2,550	82.8	64.0	
計	世帯数	28,334	28,476	29,084	100.5	102.6	
	人口	126,742	115,805	110,954	91.4	87.5	
合計	世帯数	41,515	41,954	43,191	101.0	104.0	
	人口	184,621	170,317	164,887	92.1	89.2	

3 交通

(香川県の交通)

図幅の香川県側基幹道路は、国道198号線(高松市～徳島県海南町)のほか、主要地方道「坂出貞光線」、一般県道「杵所西中徳線」、「久保谷塩江線」、「美馬塩江線」等があり、いずれも地域における産業経済活動及び生活基盤の根幹として重要な役割を果している。

(徳島県の交通)

本図幅における基幹道路は、吉野川南岸沿いに東西に走る国道192号線(西条市～徳島市)、穴吹町～高松市を結ぶ国道193号線(高松市～徳島県海南町)及び吉野川北岸を東西に走る県道12号線(鳴門市～池田町)であり、産業経済活動の根幹は上記3線の外、これより枝状に分岐した県道16本と主要町村道によってなされている。

鉄道については、吉野川南岸を国鉄徳島本線(徳島市～池田町)が通り、道路と共に交通に重要な役割を果している。

以上主要な交通網については、国・県・町村が力を合わせて完備を急いでいる。

4 産業

(香川県の産業)

図幅内の農業は、地形的条件から水田面積が狭少で米作は少なく、高冷地野菜や栗、しいたけ等特殊林産物を複合させた経営が多く、その規模は零細であり兼業農家が多い。

林業は、徳島県境に至るまで、香川県では有数の経済林として、その殆んどは人工林であり、松、杉、檜等の優良針葉樹で占めている。

また、大滝山には「県民いこいの森」があり、近郊都市周辺からの自然レクリエーション地域として重要な役割を果している。

(徳島県の産業)

(1) 農林漁業

図幅内の農業は主として吉野川河谷の扇状地・台地・吉野川氾濫原性低地に発達し、平坦地帯は米作を中軸として、西瓜、きゅうり、なす、とまと、いちご等が生産され、牛、豚、鶏等の飼育も盛んで県下屈指の生産地となっている。

山麓地帯では、ぶどう、みかん、八朔、栗の栽培が、また山間地帯では、た

ばこ、そ菜等が生産され、蚕、牛、豚、鶏の飼養が進展しつつあり、京阪神の生鮮食料品の供給基地として、農業の近代化が進められている。

林業については、人工造林地は少なく、全般に天然のアカマツを主とし、急峻な谷筋では広葉樹林が分布しており、良質材は産出されてない。

また水産業は吉野川及びその支流で夏季に鮎やうなぎ漁が盛んである。

(2) 商 業

商業については、吉野川の谷口に古くから発達しているが、殆んどが小規模な日常生活必需品の小売業及び飲食業で、店数は多いが従業員数は1店当たり2.3人で、殆んどが家族従業者で販売額も小さい。

(3) 工 業

工業では古くから、縫製、敷物、紙加工、木製品、食品加工が盛んであるが特に半田素麺、半田漆器は有名である。

また最近、国道192号、193号と交叉する付近は、阪神、瀬戸内海両経済圏との往来もはげしく、テレビ、ねじ、びょうり、ベアリング、靴のメーカーが誘致され、地域産業の発展に役立っている。

(4) 観 光

阿波・脇・山川・穴吹町にある土柱高越山県立自然公園は、交通網の整備に伴ない、阪神及び都市生活者の憩いの場として招く招かざるにかゝらず観光客は増加しており、特に土柱周辺は近年自然休養村に指定され休養センターの建設、さらには観光農業の推進につとめている。

第4表 農業就業人口・農家戸数

県名	区分	昭和40年(A)		昭和45年		昭和50年(B)		B/A (%)	
		戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
香川県	長尾町	1646	3331	1646	3127	1514	2304	92.0	69.2
	三木町	3291	6880	3291	5933	3073	4809	69.2	69.9
	塩江町	1025	2021	1025	1656	868	1308	84.7	64.7
	綾上町	1716	3960	1716	2983	1576	2072	91.8	52.3
	琴南町	964	2111	964	1742	882	1355	91.5	64.2
	計	8642	18303	8642	15441	7913	11848	91.6	64.7
徳島県	三野町	972	5701	932	4213	900	3678	92.6	64.5
	美馬町	1836	10639	1757	7723	1656	6841	90.2	64.3
	勝町	2833	15508	2756	12462	2540	10783	89.7	69.5
	阿波町	2314	13171	2251	10471	2153	9646	93.0	73.2
	市場町	2124	11911	2059	9334	1958	8632	92.2	72.5
	三加茂町	1604	9806	1553	7235	1393	6090	86.8	62.1
	半田町	1490	9047	1383	6501	1210	5151	81.2	56.9
	貞光町	1203	7610	1121	5468	950	4242	79.0	55.7
	穴吹町	1913	11798	1762	8396	1579	6856	82.5	58.1
	山川町	1802	10359	1709	7748	1600	6843	88.8	66.1
美郷村	709	4507	654	3112	543	2282	76.6	50.6	
計	18800	10057	17937	82663	16482	71044	87.7	64.6	
合計	27442	28360	26579	98104	24395	82892	88.9	64.6	

資料：香川県 昭和40、50年は農業センサス，45年は世界農林業センサス
徳島県 農業センサス

第5表 土地利用の概況

(単位 ha)

県名	区分	総面積 (A)	耕地計 (B)	田	畑	樹園地	山林	耕地率 B/A
	町名							
香川 県	長尾町	4588	917	759	66	92	2861	200
	三木町	7708	1,838	1,535	150	153	3,874	238
	塩江町	8010	404	199	151	54	6,484	50
	綾上町	7137	977	845	87	44	4,784	137
	琴南町	8,324	538	282	182	74	7,000	65
	計	35,767	4,674	3,620	636	417	25,003	131
徳島 県	三野町	4,330	601	191	148	262	3,071	14
	美馬町	4,620	982	416	275	291	2,680	21
	脇町	11,000	1,337	730	353	254	8,036	12
	阿波町	4,840	1,227	1,019	87	121	1,936	25
	市場町	7,240	1,296	970	157	169	4,547	18
	三加茂町	6,810	630	283	182	165	5,286	9
	半田町	5,180	492	77	212	203	3,917	9
	貞光町	4,560	431	90	201	140	3,332	9
	穴吹町	10,900	699	206	246	247	8,953	6
	山川町	4,380	614	392	74	148	2,573	14
	美郷村	5,000	268	43	66	159	4,063	5
	計	68,860	8,577	4,417	2,001	2,159	48,394	12
合計	104,627	13,251	8,037	2,637	2,576	73,397	13	

資料：1975年農業センサス

第 6 表 農業粗生産額（昭和 50 年）

（単位 百万円）

県名	区分 町名	粗 生産額	耕 種				畜 産				
			計	う ち 米	う ち 野 菜	う ち 果 実	計	う ち 肉 用 牛	う ち 乳 用 牛	う ち 豚	う ち に わ と り
香 川 県	長尾町	3413	1363	775	502	86	1786	109	222	441	1014
	三木町	4821	2549	1564	819	166	1451	180	461	202	608
	塩江町	826	438	178	246	14	235	34	115	10	76
	綾上町	3129	1154	872	229	53	1566	214	115	559	678
	琴南町	4356	1891	1333	363	195	2081	316	170	711	884
	計	16545	7395	4722	2159	514	7119	853	1083	1923	3260
徳 島 県	三野町	1631	351	202	72	77	729	148	158	150	273
	美馬町	4515	722	410	140	172	2938	110	87	347	2394
	脇町	5228	1113	673	156	284	3253	116	144	529	2464
	阿波町	5733	1918	1254	467	197	3369	379	106	1239	1645
	市場町	5795	2066	1030	769	267	3200	325	283	2216	376
	三加茂町	1497	488	327	127	34	378	41	141	123	73
	半田町	1185	146	75	54	17	489	23	69	183	217
	貞光町	1121	181	83	58	40	364	38	76	2	248
	穴吹町	1645	326	167	95	64	822	97	65	146	514
	山川町	1421	775	456	217	102	396	112	70	112	102
	美郷村	580	112	32	44	36	216	17	30	17	152
計	30351	8198	4709	2199	1290	16157	1406	1229	5064	8458	
合 計	46896	15593	9431	4358	1804	23276	2259	2312	6987	11718	

資料：香川県 生産農業所得統計

徳島県 農林水産統計年報

第7表 産業別就業人口

県名	区分 町名	総数	第1次産業				第2次産業				第3次産業
			計	農業	林業 狩猟業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	
香川県	長尾町	6735	1668	1648	14	6	5057	9	658	1501	2899
	三木町	12596	3395	3367	25	3	9201	5	1336	2488	5372
	塩江町	2706	987	964	21	2	1719	-	257	535	927
	綾上町	4634	1552	1540	11	1	3082	5	421	1177	1479
	琴南町	2502	1058	1035	23	-	1444	1	268	551	624
	計	29173	8660	8554	94	12	20503	20	2940	6252	11301
徳島県	三野町	2785	1380	1360	13	7	585	7	226	352	818
	美馬町	5209	2475	2467	7	1	1327	8	543	776	1399
	勝町	8772	2892	2858	27	7	2477	17	930	1530	3377
	阿波町	7278	2932	2732	15	4	2187	15	621	1551	2152
	市場町	6439	2751	2925	2	5	1588	16	476	1096	2093
	三加茂町	4879	1882	1828	53	1	1425	15	486	924	1566
	半田町	4138	1961	1868	93	-	1027	1	486	540	1150
	貞光町	3935	1561	1550	10	1	878	3	392	483	1493
	穴吹町	5049	1935	1691	241	3	1386	10	633	743	1724
	山川町	6061	1337	1316	19	2	2311	11	610	1690	2399
	美郷村	1320	665	603	62	7	402	12	198	192	250
	計	55865	21771	21198	542	38	15593	115	5601	9877	18421
合計	85038	30431	29752	636	50	36096	135	8541	16129	29722	

資料：昭和50年国勢調査

第 8 表 製造品出荷額等

県名	区分	事業所数	従業員数 人	現金給与額 万円	原 材 料 使用額等 万円	製 造 品 出荷額等 万円	付加価値額 万円
	町名						
香 川 県	長尾町	89	1320	138697	646488	1077366	400532
	三木町	139	1409	130098	309179	617470	298989
	塩江町	26	333	26620	88906	147281	57682
	綾上町	39	625	56106	163689	346811	168334
	琴南町	15	152	8560	3490	16810	13184
	計	308	3839	360081	1211752	2205738	938721
徳 島 県	三野町	34	363	21144	62965	121414	58449
	美馬町	55	674	45200	255408	394274	137930
	脇町	69	1810	198219	784143	1195006	410232
	阿波町	52	1776	184681	508690	934043	422553
	市場町	56	1056	104024	253087	447477	192948
	三加茂町	81	697	44635	160392	283925	119156
	半田町	75	655	37921	134176	200109	65704
	貞光町	66	511	36877	97588	160741	61689
	穴吹町	49	550	36839	318499	391001	71128
	山川町	52	794	65616	244243	322260	78017
	美郷村	14	134	7280	12960	29000	16040
	計	603	9020	782436	2832151	4479250	1633846
合 計	911	12858	1142517	4043903	6684988	2572567	

資料：昭和50年工業統計調査

Ⅲ 開発の現況と方向

(香川県域)

本図幅は、そのほとんどが、阿讃山麓に位置し、豊かな森林資源に恵まれた自然環境に富む地域である。したがって、その地理的条件からみて、農林業を主体とした発展策を図る必要がある。

農業については、農業就業人口及び耕地の減少等農業経営全般が大きく変化するなかで、高冷地野菜、栗、しいたけ栽培等の特殊林産物の適地適作による経営の近代化を図るとともに、都市圏との有機的連結のもとに流通機構の整備が望まれる。

また、本地域が阿讃山麓自然休養村の中心地帯であるところから、上記の特殊林産物や古くからの塩江温泉、更には近時のアメゴ養殖とも結び付け、保養と自然に親しむレクリエーションに視点を置いた振興策も有力である。

林業については、本地域が良質の経済林をもつ地域であり、県土保全、水源かん養はもとより、自然レクリエーションにも重要な役割を果しているため林内道路密度を高めるとともに、改良、舗装等を積極的に推進する必要がある。

(徳島県域)

就業構成からみて、第1次産業の比重の極めて高いこの地域は、産業構造を高度化し、所得水準の向上と人口扶養力の増加を図り、他地域と均衡のある成長発展を期するためには次のような開発が望まれる。

(1) 農業生産の選択的拡大

畜産の比重が極めて高く選択的拡大が進展しつつあるが、より収益性の高い農業を実現するために適地適作を基本としてそれぞれの地区の基幹作物を選定し、農業の近代化合理化を促進する。

(2) 生産基盤の確立

(1)を推進するためには、都市圏との有機的連結をはかるための、流通機構の整備、農道の新設改良、ほ場整備、農用地開発、国営吉野川北岸総合かんがい排水事業の促進等が望まれる。

(3) 林業経営の合理化、近代化を推進する。

(4) 工業の積極的導入

余剰労力を利用するための企業を積極的に導入すると共に生産関連施設とし

て国道の整備はもとより、主要地方道の整備及び四国縦貫自動車道の建設を促進する。

(5) 観光レクリエーション施設の整備

土柱高越山県立自然公園を中心とした各施設の整備をはかると共に観光農業の振興及び竜王山ラインの開発を促進する。

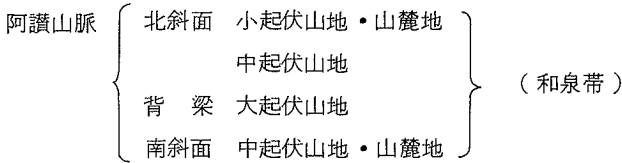
各論

I 地形分類

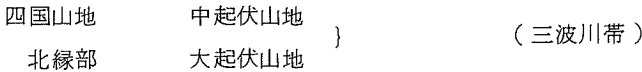
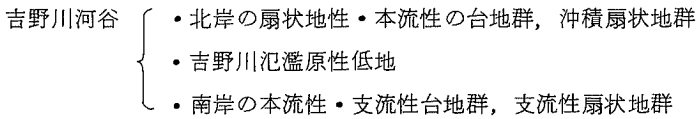
1 地域概況

図幅の北より南へ、次の地形要素が帯状に分布している。

(地質帯)



(中央構造線)



なお阿讃山地区を南北に横断して、曾江谷川・東俣谷川が南流している。これらの分水界は阿讃山脈の背梁に一致せず、その北側の前山群(図幅北側の花崗岩山地)に発している。

2 地形各論

(1) 山地・丘陵地

(香川県域)

山地・丘陵地は5万分の1地形図の各辺を20等分した方眼中的の最高点と最低点の比高による起伏量で区分した。起伏量400m以上を中起伏山地, 200m未満150m以上を中起伏山地, 200m未満150m以上を小起伏山地, 150m未満100m以上を丘陵地(I), 100m未満の丘陵を丘陵地(II)とした。しかしこの図幅の香川県側には丘陵地はない。

大起伏山地は香東川支流の椀川上流にある上俵付近以南の谷の南岸, 木綿織の谷の西岸から, 物井川・内場川の谷以南, すなわち香川郡塩江町の上俵・木綿織・真名屋敷・大屋敷・別子・小出川・一ツ内・堀山・細井・甲神・松尾などの集落を含み, 大滝山(946m)山頂の北東0.9Kmの県界を成す尾根から西

方は竜王山（1059.9 m）山頂北東約0.4 Kmの鞍部に至る香川・徳島県境を含む一帯である。谷は深い壮年期のV字谷を成し、河谷低地は極めて狭く、河岸段丘もほとんど見られない。和泉層群の砂岩・泥岩互層から成るが、泥岩が砂岩より侵食されやすいため、地層配列の状態が地形に現われてケスタ状となり、ケスタ背面に当たる南側斜面の地表に砂岩が露われてやや暖い勾配を見せ、ケスタ前面に当たる北側斜面に互層の切り口が露出して急傾斜の斜面をつくっている。

中起伏山地は大起伏山地の周辺に拡がり、その北辺は木田郡三木町南部にある標高399.8 mの南方約0.8 Kmの山嘴で県界上海抜460 m付近から、塩江町の中筋・石打を経て内場池西岸山麓に沿い、城原・炭谷南方・下切を通り、塩江町と綾歌郡綾上町との境界を成す山嘴の海拔460 m付近から柏原溪谷南方の海拔400 m付近に至っている。この範囲には塩江町の粉谷・嵯峨野・下所・馬瀬・物井川・焼堂・荒小向の大部分・城原・柿野・日ヶ宗・下貝ノ股・上貝ノ股・浅木原・水ヶ本などの集落が含まれ、綾上町南端部のほか柏原溪谷北側の前山（643.1 m）付近一帯も中起伏山地となっている。さらに、仲多度郡琴南町ではこの図幅内の全域、すなわち、雨島・中熊・浅木原・日開谷・沖野・株切・横畑・川奥・久保谷・大窪・三角・奈良ノ木・谷田・笥籠野などの集落がこの範囲に含まれる。地形の特色は大起伏山地とほぼ同様で集落が麓屑面や地すべり地形などの上に立地することが多い。

小起伏山地は図幅の北辺にあり、三木町南部と塩江町の枕川・田中・北内・塩江・池ノ谷・内場・芦川・神羽などの集落を含んでいる。山嘴状の地形が卓越し、谷には台地・低地が諸所に見られる。

（徳島県域）

阿讃山脈にあっては、竜王山（1059.9 m）、大滝山（946 m）、台ノ丸山（694.6 m）、妙体山（785 m）を中心に大起伏山地が東西に連らなって分布しており、その南側に、吉野川河谷を縁どるように中起伏山地が分布している。中起伏山地の高度は西で600 m台、東で400 m台が多い。大起伏山地と中起伏山地との境界は漸移的である。とくに、山稜が和泉層群の地質構造を反映して東へ開いた弧状をなし、その稜線をはさんで東西に非対称な山腹傾斜（ケスタ状）を呈するため、小範囲の起伏量は、東向き山腹で小起伏、西向き山腹で大起伏となり、

大起伏山地・中起伏山地の地形区設定が難しい。

四国山地にあっては、中起伏山地が図幅範囲の大部分を占め、高越山(1122m)を中心に大起伏山地が分布している。高越山周辺での大起伏山地と中起伏山地との境界は、山腹傾斜の不連続によって比較的明瞭に設定できる。中起伏山地は図幅西側で、高度800+m以下、中央で700+m以下、東側で500m未満である。

地すべり性崩壊地 滑落崖が明瞭で、かつ緩斜面に崩積層が残っているものだけに限定した。

通常地すべり地と言われるのはこの緩斜面であり、崩積層の2次的の移動によるものらしい。地すべりにともなって滑落崖が除々に成長した実例は現在のところ見当たらない。緩斜面背後の急斜面は形態的に崩落・滑落到起源することを考えさせる。

山頂山腹緩斜面 多くは地すべり性崩壊地であるが、緩斜面背後の滑落崖が不明瞭なのはすべてこれに含めた。阿讃山脈・四国山地に分布している。

崩壊地 1965年・1975年撮影の1/20,000航空写真によって、約1000m²以上の広がりをもつものを図示した。また1976年17号台風による主要崩壊地も記入した。しかし、古くてすでに植被におおわれたものは示していない。曾江谷川東岸船久保の茶園嶽の崩壊(明治18年)跡は崩積層が流亡したので図示していない。

人工改変地 規模の大きなものは、阿波町北西方阿波カントリークラブゴルフ場用地、穴吹町東方四国カントリークラブゴルフ場の2箇所であり、他は小さな土取り場・低地の埋め立て地等である。

(2) 山麓地

(香川県域)

山麓地は山地と傾斜急変線で境され、山麓に展開する開析の進んだ緩斜面で、頂部は平担だが谷に刻まれた波状または山嘴状の地形である。この地形上に砂礫層が残存している場合が上位台地である。

本図幅の香川県側で山麓地が認められるのは綾川上流の柏原溪谷南岸一帯で上柏原付近では北岸の一部にも見られる。塩江町では戸石付近、綾上町では上柏原付近一帯がその範囲に含まれている。

(徳島県域)

吉野川北岸の台地面群の背後(北側)にあって、高度 300m 以下であるものが多い。断層階段をなしており、和泉層群が露出するところと、断層崖下の崩積層群が露出するところと、断層崖下の崩積層(多くは新期扇状地層相当)が厚く分布しているところがある。美馬町吉水では厚い新期扇状地礫層が数段の段地形をつくっている。美馬町荒川の中野谷川東岸の山嘴南端には新期扇状地礫層(厚さ 30 m 以上)の上に破碎された和泉層群がごく低角度でのし上げている。これは gravitational spreading 現象であろう。その水平ずり出し量は約 100 m に達する。

美馬町猿坂・池ノ浦、脇町岩倉北方では断層凹地地形がみられる。池ノ浦の東側の 210 m の丘は、北側地塊の隆起に伴って南へせり出した(gravitational spreading)、破碎された基盤岩である。

脇町北方、阿波町北方の山麓面としたものは、父尾断層の南側の地塊であり、かつ土柱断層(三角末端面を図示。最大比高 70 m)に南を限られている。この 2 断層の間の和泉層群は破碎が著しい。長峰北方父尾付近では父尾断層崖下の崩積層(新期扇状地礫層であるが、27,000 年 B. P. の木材を産す)は厚さを増し、70 m 以上に達する。

(3) 台地

(香川県域)

上位砂礫台地 上位台地としては塩江町柞野の香東川本流南岸にこの地形がある。河床には基盤が露出しており、河床から比高 7 m 以上に礫がある。この礫は崩落堆積物で河床からの比高 16 m の地形面を覆う砂礫層の厚さは 3 m ないし 2 m くらいである。礫の母岩は和泉層群の砂岩と花崗岩類で最大径は 30 cm、著しく風化している。また、この下の基盤は和泉層群の砂岩である。

下位砂礫台地 下位台地はいわゆる洪積台地であって、各河谷の下位段丘面として諸所に散在し、平坦地の少ない当地域では貴重な耕地・集落の立地する地形を提供している。この地形面はほとんど水田化され、砂礫層の状態を知るのに好適な露出がほとんどない。

この地形が分布するのは吉野川支流の曾江谷川に沿う大川郡長尾町南端部と、香東川支流椏川の谷にある中筋・田中・北内・菖蒲野付近、同内場川の谷にある

荒小向・檜・焼堂付近、綾川上流の下切・戸石付近など塩江町の各地などである。

段丘崖の比高はいずれも6 mから10 m内外で上に約2 mくらい砂礫層がある。礫の母岩は長尾町では花崗岩類を主とし、砂岩礫を含み、最大径7 cmくらいであるが、その他の地域では和泉層群の砂岩由来の礫が多い。栂川・内場川・綾川などの沿岸にある台地を構成する礫は粒径の大きい亜角礫を含み、この地形面が山地に接した所では一部が崩落堆積物で覆われている。

(徳島県域)

本流性・扇状地性を問わず、堆積型(砂礫台地)・侵蝕型(岩石台地)とし、かつ高・中・低位に区分した。吉野川北岸の台地面は中央構造線(狭義)に並走する多くの断層によって切断され、階段状をなしている。

台地面を切る小断層崖(比高数~数10 m)、断層凹地、三角末端面(最大のもは阿波の土柱付近で、砂礫層を切るもの、比高70 m)等は付加記号によって図示されている。

吉野川北岸

上位砂礫台地…美馬町中西・中上にあり、本流性砂礫層(結晶片岩礫の円礫を多く含む)よりなる。風化が著るしく、赤色土化されている。

中位砂礫台地…本流性の厚い砂礫層およびこれをおおう新期扇状地礫層よりなる。本流性砂礫層は美馬町竹ノ内、脇町馬木、脇町庄、阿波町切戸・馬場などで吉野川に面した段丘崖の下半部に、また、阿波町東条の伊沢川河床などにみられる。新期扇状地礫層は和泉層群角礫層を主とし、砂・シルトのレンズを挟んでいる。含まれる材化石のC-14年代は30,000年B.P.以上のものと27,000年B.P.前後のものがある。台地面は断層によって南北に階段状をなす他、南北方向の側刻崖を境として東西に階段状をなすこともある。

中位砂礫台地としたものの上限高度の多くは高度200mであるが、前述の山麓面には新期扇状地礫層の堆積面が含まれており、中位台地面と本質的に区別されない。この関係は阿波土柱東方に図示されるように、新期扇状地礫層が厚く分布するところは中位段丘面、これが相対に薄く(20 m以上あり岩石台地とはできない)基盤岩の露出するところは山麓面としてある。

下位砂礫台地…支流に沿うものと本流に沿うものがある。

下位岩石台地…支流沿い、山地内に分布する。

吉野川南岸

上位岩石台地…穴吹川東岸、穴吹町上谷、川田川西岸の田ノ浦および東岸の山川町旗見に分布している。

中位岩石台地・低位岩石台地…本流に沿うものは半田川東岸、穴吹川兩岸、川田川東岸に分布している。段丘崖によって数段に分けられるものを一括図示してある。

下位岩石台地…半田川下流および川田川下流に、顕著で段丘面の明瞭な所と上に扇状地礫層をのせて不明瞭な所がある。

4) 低地

(香川県域)

この地域の香川県側の低地はすべて河谷底に極めて狭く分布する谷底の氾濫原であって、塩江町の柞野付近・椀川沿岸・綾川上流の戸石付近、綾上町の柏原溪谷付近などに見られる。河床にはほとんど基盤が露出し、支谷には土石流地形が諸所に認められる。

また、人工平坦地は塩江付近の香東川南岸にあり、旅館の敷地として造成された。

(徳島県域)

吉野川沿岸の氾濫原性低地と支谷の出口に発達した沖積扇状地とからなる。

吉野川沿岸の氾濫原性低地は自然堤防様微高地面、一般面、旧河道面〔性質としては後背湿地〕とに3分した。一般面であっても、自然堤防をふちどる旧河道面状の部分がある。

吉野川の最近50年間のうちの最高洪水水位は1954年洪水であり、これと1946年洪水の2つの水位が良く記憶されている。また1969年洪水水位が最近であるため記憶されている。この3者の洪水時の浸水範囲の聞き取り調査を行った(阿子島・木内 晃, 1975年調査)1954年洪水までは堤防が完成しておらずほぼ全域で聞き取りが可能であった。

自然堤防様微高地面の設定は相対的なもので、現河床との比高、最高洪水水位との比高(冠水深)は変化に富む。舞中島の微高地面は一般面との比高1 m程度、最高洪水時には2.5 + m水没し、築堤(1965年完成)前はほとんど毎年冠水した。微高地面としてとくに高いのは岩津の曾江谷川出口東岸にあるもので、舟型の島

をなし、現河床より約 5 m、最大洪水時でも浸水深は 0.5 m であった。また小島付近の微高地面は堤防型というよりはむしろ段丘型を示すが、1954 年洪水では冠水している。

旧河道面として図示したものは現吉野川河床に近い水準のものである。

支谷の扇状地面と本流の氾濫原性低地面とは比較的明瞭な傾斜の不連続によって示される。

(香川県域 高 桑 糺)

(徳島県域 寺 戸 恒 夫)

(" 阿子島 功)

Ⅱ 表層地質

1 未固結堆積物

(1) 砂礫および粘土（沖積世）

各河川の谷底平野を形成するもので、主として砂礫よりなる。現河道堆積物と谷底はんらん堆積物よりなる。

(2) 碎屑物（洪積世？）

阿讃山地の山腹緩斜面には、砂岩・泥岩の角礫よりなる崖錐性堆積物が分布している。厚さ数 m 以下で、かつての地入りにより形成されたものと考えられる。

2 半固結堆積物（洪積世）

(1) 低位段丘礫層（ g_5 ）

結晶片岩円礫を主とし、少量の砂岩礫を伴う礫層で、粗粒の砂により膠結されている。風化作用をほとんど受けておらず、礫は新鮮である。阿讃山地の支流沿いのものは、砂岩礫のみよりなる。

(2) 新期扇状地礫層（ g_4 ）

和泉層群岩石の歪角礫～角礫よりなる礫層で、泥質の砂により膠結されている。隆起扇状地を形成し、段丘状の地形を呈する。

(3) 中位段丘礫層（ g_3 ）

結晶片岩、砂岩の円礫よりなる礫層で、粗粒砂により膠結されている。新期扇状地礫層に覆われており、段丘面はみられない場合が多い。一部では風化作用を受け、砂岩・緑色片岩が内部までくさり、5YRの色相を呈する。

(4) 高位段丘礫層（ g_2 ）

吉野川北岸のものは結晶片岩、砂岩の円礫よりなり、粗粒砂により膠結されている。緑色片岩礫、砂岩礫は“クサリ礫”となっている。赤色土化作用を受け、2.5YRの土色を呈する。南岸も北岸と同様“クサリ礫”となっているが、マトリックスの粘土化が著しく進んでおり、緑色片岩礫、黒色片岩礫が風化してマトリックス化している部分もある。土色は5YR以上で、時には10Rに達することもある。

(5) 古期扇状地礫層（ g_1 ）

吉野川南岸の山腹に分布する結晶片岩角礫層で、一部クサリ礫となっている。粘土質マトリックス（2.5YRの色相を呈す）により膠結されている。分布高度が新期扇状地礫層より大きいので、区分したが、時代的な差については不明である。

3 固結堆積物（和泉層群：中生代白亜紀）

和泉層群は東西性の褶曲軸をもつ向斜を形成しており、褶曲軸は東へ向って沈降している。阿讃山地の南縁には中央構造線が東西に走り、これに平行した断層がみられる。中央構造線の北側200-500 mの間は著しく破碎されている。

(1) 礫岩層（cg）

和泉層群の基底礫岩である。礫種は花崗岩が大部分をしめ、その他ホルンフェルス、玢岩、流紋岩およびチャートなどがみられる。礫の大きさはcobbleサイズのものが多いが、時には巨礫もみられる。

(2) 砂岩層（ss）

細粒ないし中粒の灰白色砂岩で、炭質物を含むことや、アルコーズ質になることもある。

また2 m前後の礫岩層や炭質頁岩をはさむこともある。

(3) 泥岩および泥岩がち砂岩泥岩互層（ms）

岩の比率が40%以下の砂岩泥岩互層および泥岩層である。風化し崩壊しやすいため、禿山となり、流土地がみられることが多い。

(4) 砂岩泥岩互層（alt）

砂岩の比率が40% - 60%の互層である。砂岩層は厚さ20 - 40 cmのものが多いが、ときに1 m以上のものもある。泥岩層は10 - 30 cmのものが多い。

(5) 砂岩がち砂岩泥岩互層（Sa）

砂岩の比率が60%以上の砂岩泥岩互層である。砂岩は厚いものは2 - 3 mに達するが、数10 cmのものが多い。

(6) 凝灰岩層（tf）

灰色ないし緑灰色の細粒凝灰岩であり、珪化作用を受けており、堅硬である。酸性火山噴出物である。厚さ20 m前後で、連続性がよい。

4 火山性岩石

(1) 流紋岩（L）

内場池周辺および塩江町中筋附近に小丘状または岩脈状に分布している。一

般に灰白色ガラス質である。斑晶として僅かに石英および黒雲母がみられる。風化している部分もある。また内場ダム右岸にみられるように、淡緑色一乳白色の蛋白石質のものもある。

5 深成岩

(1) 花崗岩類 (Gr)

本図幅北縁に分布しており、領家花崗岩に属する。中粒ないし粗粒の完晶質の岩石で、その大部分は花崗閃緑岩である。時に優白質の黒雲母花崗岩もみられる。貫入時期は中生代である。

主成分鉱物 : 斜長石, 石英, 微斜長石, 黒雲母, 角閃石

副成分鉱物 : 燐灰石, ジルコン, 磁鉄鉱

(2) 蛇紋岩

南部の三波川結晶片岩中に小規模な侵入岩体が点々とみられる。

6 変成岩

図幅の南部に三波川結晶片岩類が分布している。地域の南部に無点紋片岩が分布し、北半に点紋片岩が分布している。

点紋片岩層の岩石は変成度が高く構成鉱物の粒径も粗粒(径0.2mm以上)で、片理の発達は無点紋帯の岩石より弱い。ときに塊状のこともある。これに対して、無点紋帯の岩石は、構成鉱物の粒径は細粒(径0.2mm以下)で片理の発達が著しい。点紋帯の塩基性片岩は風化しやすく、深さ数mにわたって風化されていることがある。同帯の泥質片岩は塩基性片岩より風化しにくいが剝離性に富んでいるので、こまかく割れて鱗状になる。

主要文献目録

平山 健(1953): 7万5千の1地質図幅, 脇町および同説明書。44p,
地質調査所。

小島 丈児・秀敬・吉野 言生(1956): 四国三波川帯におけるキースラガー
の層序的位置。地質雑, vol. 62, p30-45。

中野 光雄(1953): 讃岐山脈中部の地質。広島大学地学研究報告, No. 3,
p.1-13。

Nakagawa, C. (1961): The Upper Cretaceous Izumi Group in

Shikoku. Jour. Gakugei, (Nat.Sci.),

Tokushima Univ. Vol. 11, p.77-124。

齊藤 実他(1962):香川県10万分の1地質図および同説明書,内場地下水工業K.K.

須鎗 和巳(1973):阿讃山脈の和泉層群の岩相区分と対比,東北大学理科報告(地質学),特別号, No.6, p.489-495。

Ⅲ 土 壤

1 山地・丘陵地の土壤

1-1 概 説

本図幅内の山地丘陵地は全国幅面積の約8割を占め、中央構造線の北側を東西に走る阿讃山脈の陵線の北部と南部、吉野川南部の3つの山地丘陵地に区分される。

植生は全般にアカマツを主とする二次植生であるが、海拔高の低い阿讃山地ではアカマツを上木とし、下層にコナラ、アラカシ、リョウブ、ヒサカキなど陽性かつ乾性の植生が発達する。

南部山地では、アカマツ、コナラ、ミズキ、ヒサカキなどを主とする植生が分布するが、阿讃山地に比較して落葉広葉樹の生育が旺盛である。

山地丘陵地の土壤はほとんど褐色森林土壤であるが、母材と地形に密接に関連して特ちょうのある形態を示している。

花崗岩を基盤とする阿讃山脈の北部丘陵地には、土壤生成が未熟で下層の土色が茶褐色を呈する土壤が広く分布する。一般的に乾性土壤が広く分布し、適潤性の土壤は少ない。

和泉層群の砂岩、泥岩を基盤とする阿讃山脈の南部山地および中央構造線の南部山地の土壤は、概して断面層序の発達はよくないが、花崗岩類を基盤とする土壤に比べて層位の分化がかなり明瞭であり、土壤は埴質で適潤性土壤の分布が広い。

本図幅内の山地丘陵地の土壤は、褐色森林土壤と赤色土であるが、この土壤は断面形態、母材、堆積様式によって、つぎのとおり5土壤統群、13土壤統に細分される。

1-2 各 論

(香川県域)

1. 乾性褐色森林土壤

(1) 綾上1統 (Aya 1)

図幅北西部の柏原溪谷以北の前山周辺に分布する。花崗岩類を母材とし、尾根筋ならびに山腹凸形斜面に出現する乾性土壤である。表層には粗粒状または塊状構造の発達したA層が、3～5cm程度形成される。B層は比較的堅密な堆積をしめし、一般に黄褐色を呈するが、一部にはさらに赤味の強い赤黄褐色を

呈するものもある。全般的に砂質である。

この土壌は、アカマツを主体とした天然林が多いが、その生育はあまり良くない。

(2) 菩提山1統 (Bod 1)

綾上町安原下附近の海拔高約400m以下の地域に分布し、尾根筋および山腹凸形斜面に出現する乾性土壌である。和泉層群の砂岩、頁岩、礫岩等を母材とし、A層の形成は薄く、粗粒状構造が発達するが菌糸をともなり粉状構造がみられるものもある。B層の堆積は比較的堅密で堅果状構造がよくみられる。土色は一般に黄褐色を呈するが、一部には赤味の強い赤黄褐色を呈するものもある。

この土壌はアカマツ、広葉樹の天然林が多いが、その生育はあまり良くない。
褐色森林土壌 (黄褐色系)

(1) 綾上2統 (Aya 2)

綾上1統と同じ地域に分布するが、谷沿斜面や、谷頭凹形斜面に出現する。やや湿った環境下にあるため、腐植の土層への侵入は良好で、一般に淡色ではあるが20~30cmのA層が形成される。土壌構造は粗粒状構造が優占するが、軟粒状構造の発達するものもある。B層は比較的堅密な堆積をし、一般にカベ状を呈す。

この土壌は、アカマツ、広葉樹の天然林が多いが、その生育は中ようである。

(2) 菩提山2統 (Bod 2)

菩提山1統と同じ地域に分布するが、谷沿斜面や谷頭凹形斜面に出現する。やや湿った環境下にあり、20cm前後のA層が形成される。B層は黄褐色を呈し堅果状構造が発達する。

この土壌は、アカマツ、広葉樹の天然林が多いが、その生育は良好である。
乾性褐色森林土壌

(1) 塩江1統 (sho 1)

阿讃山地全域に広く分布し、和泉層群の砂岩、頁岩を母材とする。尾根筋および山腹凸形斜面に出現する乾性土壌である。比較的厚いA₀層が堆積し、H層の形成もしばしばみられる。A層の形成は薄いが、塊状または粗粒状構造が発達する。アカマツ林や尾根頂部のとくに乾燥するところでは、菌糸をともな

う粉状構造が発達するものがしばしばみうけられる。B層には堅果状構造がよく発達する。

この土壌では、アカマツ、広葉樹の天然林が多いが、尾根筋の一部のものをのぞけば、生育は中ようである。また一部にアカマツ、ヒノキの人工造林地が見受けられる。

褐色森林土壌

(1) 塩江 2 統 (sho 2)

塩江 統と同じ地域に分布し、谷沿斜面および山腹凹形斜面に出現する。湿った環境下であり、腐植の土層への侵入もよく、厚いA層が形成され、軟粒状または粗粒状構造が発達する。B層は一般にカベ状を呈するが、堅果状構造のみられるものも少なくない。谷沿斜面に出現するものは崩積性のものが多く、このような土壌では層全体に小中角礫に富み、土壌の物理性は良好である。

この土壌には、スギ、ヒノキの人工造林が多く、その生育は良好である。

(徳島県域)

乾性褐色森林土壌

(2) 鉢伏山 1 統 (Hab 1)

阿波郡阿波町、市場町に分布しているが、母材は中生代の砂岩、頁岩からなり、壤土または砂質壤土で、尾根筋、凸形斜面上部に出現する。残積土で断面層序の発達がわるい。A層に微粒状構造が多くみられ、界線は明瞭である。B層には塊状構造がみとめられ、密で、やや乾性である。植生はネズミサシ、ヒサカキ、モチツツジが多く、アカマツ、落葉広葉樹の天然林で一部クロマツ、ヒノキの造林地がある。

(3) 代官松 1 統 (Dak 1)

吉野川南部の三加茂町、半田町、貞光町、穴吹町、山川町に分布し、母材は三波川変成岩類からなり、10YRの色相をおび、尾根および山腹凸形斜面に出現する。残積土で、A層は腐植に富んでいる。B層には堅果状構造、カベ状構造がみとめられる。アカマツ、落葉広葉樹の天然林が多く、一部ヒノキ、アカマツの造林地がある。

(4) 竜王山 1 統 (Ryo 1)

中央構造線の南、美馬郡半田町白石、貞光町端山、穴吹町口山、山川町

高越山附近に分布し、母材は黒色片岩で、尾根および山腹凸形斜面に出現する。土性は埴質のものが多く、土色はやや赤褐色を示す。A層が薄く、B層に塊状構造がみとめられ、石礫が多い。アカマツ、落葉樹の天然林が多く、スギ、ヒノキの造林地もみられ、生育がよい。

褐色森林土壌

(2) 鉢状山2統 (Hab 2)

鉢状山1統と同じ地域に分布し、谷沿斜面、山腹凹部に出現する。堆積様式は崩積土で、土性は埴質壤土、土色は鉢状山1統より暗色である。A層は厚く小角礫を含み、粒状構造がみとめられる。B層60cm内外でかなり厚い。アカマツ、落葉広葉樹林地が多い。

(3) 代官松2統 (Dak 2)

代官松1統と同じ地域に分布し、谷沿斜面、山腹凹形斜面に出現する。堆積様式は崩積土が多い。FH層が薄く、A層は半角礫を含み、腐植は少ない。B層は半角礫を多く含み、下部にカベ状構造がみとめられ、土層も厚く、腐植の浸透がよい。アカマツ、落葉広葉樹の天然林が多いが、谷底斜面、沢筋ではスギ、ヒノキの造林地もかなりみとめられる。

(4) 竜王山2統 (Ryo 2)

竜王山1統と同一地域に分布し、谷底斜面、山腹凹形斜面に出現する。土壌はやや粘質で、土色は代官松1統より暗色である。A層は小角礫を含み、粒状構造がみとめられる。B層は小角礫に富み、塊状構造がみられる。大半がアカマツ、落葉広葉樹林であるが、スギ、ヒノキの造林もみられ、全土壌統群のうちでもっとも生育がよい。

赤色土壌

向麻山統 (Koy)

南部山地の北麓、美馬郡半田町、貞光町、穴吹町、麻植郡山川町などの海拔高100～400mの尾根筋および凸形斜面に点状に出現する。

断面層序の発達はわるく、土壌は赤褐色を呈し、堆積は堅密で、下層は結晶片岩の小角礫を多く含む。アカマツ、落葉広葉樹の天然林で生育はわるい。

2 主として台地・低地地域の土壌(山地の樹園地、畑地、草地の土壌を含む)

(農地土壌)

2-1 概 説

本地域は阿讃山地によって、徳島県と香川県とにまたがり、町村は徳島県阿波郡市場町、阿波町、麻植郡山川町、美郷村、美馬郡脇町、美馬町、半田町、貞光町、穴吹町、三好郡三野町、三加茂町、香川県大川郡長尾町、木田郡三木町、香川県塩江町、綾歌郡綾上町、仲多度郡琴南町の16町村が含まれる。

北部の阿讃山地の土壌は主として和泉砂岩を母材とし、南部の剣山山地の土壌は結晶片岩を母材としている。両地区とも主として、褐色森林土壌に属する。

洪積台地には、礫に富む黄色土壌が分布する。

阿讃、剣山山地にはさまれた、吉野川の影響を受けた平地や中小河川の流域には、褐色低地土壌や灰色低地土壌が分布している。

なお、グライ土壌の分布は比較的少ない。

本地域は瀬戸内気候の影響を受け、徳島県としては、寡雨な地域に属するが、昭和18～31年施工の阿波用水や現在工事中の吉野川北岸農業用水等により、旱害から解放され有利な作物の導入が可能となる見とおしである。

本地域に出現する土壌統は褐色森林土壌-4、赤色土壌-1、黄色土壌-7、褐色低地土壌-3、粗粒褐色低地土壌-6、細粒灰色低地土壌-2、粗粒灰色低地土壌-3、細粒グライ土壌-1、グライ土壌-1、粗粒グライ土壌-1の10土壌統群29土壌統となっている。

2-2 各 論

褐色森林土壌

本土壌は山地に分布し、次層以下の土色が黄褐(10YR～7.5YRで彩度3以上、和泉砂岩は黄が強く、結晶片岩は赤味がかかる)を呈し、礫含量、土性により貝原統、上統、裏谷統と千原統の4土壌統に分類される。

(1) 貝原統(栗熊統)

表層は壤～粘質であるが、下層が強粘質で角礫含量は含む～富む残積性の土壌である。多くは普通畑として利用されている。分布は徳島県山川町大峯、旗見、

脇町冬畑，広棚，川原柴，芋穴，美馬町惣後，穴吹町田方にみられる。

(2) 上統（香南統，神宅統）

粘質の礫含量は含む～富む土壤で，徳島県では各地に分布する。香川県では琴南町の南東部塩江町の安原上東から上西へかけて多く分布する。普通畑を主とし，茶園，果樹園，桑園として利用されている。

(3) 裏谷統（讃岐統，山口統）

壤質の礫含量は含む～富む土壤で，徳島県では美馬町北部，香川県では塩江町の松尾，小出川，別子に分布する。主として普通畑として利用されている。

(4) 千原統（青ノ統，入体統，神山統）

きわめて浅い位置から，礫にすこぶる富む土壤で，徳島県では美馬町大久保，野田の井，半田町下竹，貞光町僧地，穴吹町尾山，上谷等に，香川県では塩江町の細井，琴南町の雨島，中熊，葛籠野，奈良ノ木に分布する。普通畑として利用されている。

赤色土壤

本土壤は剣山山地側に分布し，下層の土色が，赤褐（25～5 YR4/5）を呈する土壤で，唐原統がこれである。

(5) 唐原統（峯八統）

結晶片岩の礫に富む強粘質土壤で，新規造成の樹園地の場合に多くみられる。

黄色土壤

本土壤は洪積台地に出現する，下層の土色が黄（水田では黄褐）色の土壤で，礫含量，土性，酸化沈積物の位置により登栄西統，福田統，菅出統，北多々統，新野統，都志見統，氷見統の7土壤統に分類される。

(6) 登栄西統

半角礫の含量は含む～富む粘質の土壤で，徳島県の洪積地帯に分布し，普通畑，樹園地に利用されている。

(7) 福田統

下層に礫をかなり含む壤質の土壤で，徳島県美馬町横尾等に見られる。

(8) 菅出統

礫質土壤で，桑園，果樹園として利用されることが多く，徳島県の脇町，美馬町の洪積地帯にかなり分布する。

(9) 北多久統

作土下の土性が強粘で、マンガン結核を有する水田土壌である。下層の礫は含む～富む。徳島県阿波町小倉，山川町西原，脇町岩倉，小星，美馬町坊僧，半田町長谷保等に分布する。

(10) 新野統

表層，下層とも粘質で，下層にマンガン結核のみられる土壌である。全層にわたって礫を含む～富む。香川県三木町の一部に分布し，水田として利用されている。

(11) 都志見統

マンガン結核を有する壤質の水田土壌で，下層には礫をかなり含む。徳島県阿波町桜ノ岡，長峰，脇町北庄等に見られる。

(12) 水見統

礫質でマンガン結核を有する水田土壌である。保水性を良くするため，開田時に作土直下に強粘質土壌をハガネとして客土していることが多い。徳島県山川町，美馬町中上，半田町小野，貞光町の台地に分布する。

褐色低地土壌

本土壌は吉野川流域の排水の良い所に分布し，次層の土色が黄褐（7.5～1.0YR 6/3）を呈する粘～壤質の土壌で，芝統，江索統，三川内統の3土壌統がある。

(13) 芝統（四郎丸統）

壤質の土壌で畑，水田に利用されている。徳島県山川町北村，美馬町中島等に分布する。

(14) 江索統（国府統）

粘質の黄褐色土壌で，マンガン結核を有する，排水，保水とも良い生産力の高い乾田である。徳島県山川町，美馬町，貞光町，穴吹町の沖積地に分布する。

(15) 三川内統（上板統）

壤質のマンガン結核を有する乾田土壌である。徳島県阿波町，脇町，美馬町等の沖積地に広く分布し，香川県では三木町の一部に分布する。

粗粒 褐色低地土壌

本土壌は黄褐色を呈する砂質～礫質土壌で飯島統，二条統，外城統，長崎統，八口統，井尻野統の6土壌統がある。

(16) 飯島統（荒浜統）

砂質の排水性の良い畑地土壤で、桑園として利用されることが多い。徳島県貞光町や穴吹町に分布する。

(17) 二条統

徳島県美馬町宗分、中山の扇状地に分布し、下層が円礫にすこぶる富む土壤で、土性は壤質である。桑園、樹園地として利用されることが多い。

(18) 外城統（七条統）

徳島県美馬町荒川の扇状地に分布し、全層礫にすこぶる富む土壤で、樹園地として利用されている。

(19) 長崎統

下層土が砂質で、マンガン結核をもつ土壤で、香川県塩江町杵野に少面積の分布がみられる。

(20) 八口統

30～60 cmから（砂）礫層の出現する、マンガン結核を有する水田土壤で、徳島県阿波町や脇町等で相当分布する。

(21) 井尻野統

表層下30 cm以内より（砂）礫層が出現する土壤である。香川県の塩江町の安原下、貝の股、一ツ内、甲神、琴南町の勝浦に分布し、水田として利用されている。

細粒灰色低地土壤

本土壤は沖積低地に分布する土色が灰～灰褐色を呈する粘質土壤である。水田として利用されており、生産性は中位～高位である。宝田統と多々良統がある。

(22) 宝田統

下層土が灰色を呈し、マンガン結核をもつ粘質土壤で、徳島県美馬町や香川県塩江町の荒小向、檜に分布する。

(23) 多々良統

下層土が灰褐色を呈し、マンガン結核をもつ粘質な土壤で、香川県三木町に少面積分布する。

粗粒灰色低地土壤

本土壤は、下層土の土性が砂質か、60 cm以内から砂礫層の出現する土壤で、沖積地に分布し、水田として利用されている。生産性は低位～中位である。久世田統、国領統、栢山統の3土壤統がある。

24 久世田統

30～60 cm以下のほぼ全層が(砂)礫層からなり、(砂)礫層上の土層が灰色を呈し、粘質～強粘質である。香川県塩江町の安原上東に分布する。

25 国領統

表土のきわめて浅い、30 cm以内から砂礫層の出現する灰色土壌である。徳島県の川田川、伊沢谷川、曾江谷川、鍋倉谷川や吉野川堤防沿いに分布する。

26 栢山統

国領統と類似するが、土色が灰褐色を呈する土壌で、香川県綾上町の戸石、上柏原に分布が多い。

細粒グライ土壌

沖積地の排水不良地に分布する、強粘質の一毛田土壌で田川統がこれである。

27 田川統

作土直下からグライ層が出現し、下層に斑紋を有する、地下水位の高い強粘質土壌である。徳島県美馬町に少し分布する。

グライ土壌

壤質の一毛田土壌で、上兵庫統がある。

28 上兵庫統

表層は灰色で、下層土にグライ層の出現する壤質土壌で、徳島県脇町別所の低地に少し分布する。

粗粒グライ土壌

排水不良地に分布し(砂)礫層を有する土壌で深沢統がある。

29 深沢統

作土は粘質であるが、30～60 cmから礫層となるグライ土壌で、徳島県美馬町沼田等に少し分布する。

(注) ()内は旧土壌統名で、既刊図幅で表示されているものである。

Ⅳ 傾斜区分

傾斜区分は地表の傾斜が40°以上、30°以上40°未満、20°以上30°未満、15°以上20°未満、8°以上15°未満、3°未満の7段階に分類し、これを等高線の間隔による定規によって区分した。最小の図示単位は図上2mm以上であるが、尾根線・谷線に沿っては幅が1mm以下のものもある。また尾根線・谷線付近の地表の最大傾斜は横断方向に表われることがあるが、図上での計測は困難であるため縦断方向すなわち稜線・谷線の延びの方向で表現してある。

(香川県域)

40°以上の急傾斜地は和泉層群の砂岩と泥岩の侵食に対する抵抗の強さの差異などによる選択侵食の結果として現われたケスタ状山嶺の前傾斜面などに多く、香東川支流内場川南岸、土器川支流前ノ川南岸・同明神川南岸を始め、三木町の南端、塩江町の柞野南方・中筋南方・嵯峨野の西方と南方・粉谷南方・塩江温泉南方・焼堂付近・相栗峠北方・内場池北岸から炭谷東方・柿野南方・水ケ本付近・神羽南方、綾上町の南端、琴南町の葛籠野南方などにまとまった分布地があるほか、広範囲に散在している。

30°以上40°未満の地域は、40°以上の地域の周辺一帯に広がり、三木町の南部、塩江町の菖蒲野東方・嵯峨野東方・物井川東方・大滝山北西斜面、内場付近・炭谷付近・浅木原付近、綾上町の前山付近・上柏原付近、琴南町の雨島南東方・三角北方・横畑南方などに比較的広い分布を持っている。

20°以上30°未満の地域は、ケスタ状山嶺の後背斜面や地すべり地形などに多く見られ、その斜面上に集落が立地することも少なくない。塩江町の嵯峨野・木綿織・大屋敷・別子・小出川・堀山・松尾・上貝ノ股・下貝の股・水ケ本、琴南町の雨島・中熊・浅木原・川奥・大窪などの集落はその例である。また、これらの地域のほか、まとまった分布地は、塩江町で嵯峨野北東方・粉谷北方・真名屋敷西方・別子東方・細井西方、神羽南東方、綾上町の柏原溪谷北岸、琴南町の前ノ川北岸などの各地域に認められる。

15°以上20°未満の地域も、ケスタ状山嶺の後背斜面などに分布し、集落を立地させていることが多く、塩江町の真名屋敷・細井、葛籠野などはその例だが、内場池西岸の荒小向北方、物井川付近・細井西方、琴南町の三頭越北方などにも分布してい

る。また、徳島県との県境を成す山頂部の各所にも見られる。

8°以上15°未満の地域も、この山頂部の侵食平坦面遺物の緩傾斜地として散在するが、比較的広いまとまりを持つのは河谷低地で、塩江町の杵野地方・菖蒲野付近田中付近・塩江温泉付近・内場池南岸、綾上町の柏原溪谷などがその例であろう。

3°以上8°未満の地域は、少なく、河岸に近い下位段丘面や河谷低地、山頂平坦面の一部などに分布するにすぎない。長尾町南端から三木町にかけての曾江谷川沿岸、塩江町の杵野付近、菖蒲野南方・檜付近、綾上町に近い戸石付近、綾上町の柏原付近などの河谷と、琴南町の島ヶ峯・三頭越西方などの山頂部に見られる。

8°未満の地域は、ほとんど認められない。

(徳島県域)

阿讃山地では、稜線・谷線に3°～8°、8°～15°の緩斜面が狭長に分布する(計測上の問題は前述)。稜線と谷線との間の山腹斜面は一般に上部が緩く、下部が急である。ケスタ山稜の東向き(北東～南東向き)斜面では3°～40°、西向き(北西～南西向き)斜面では15°～40°以上が、それぞれ表われることが多く、常に1～2階級西向き斜面が傾斜の大きい非対称山腹となっている。東向き斜面に3°～15°の緩斜面が表われるのは地上り型の地形が多いためである。

吉野川北岸の台地は、断層崖・侵蝕崖によって数段に分けられた階段状をなし、上位のものは密に発達した開析谷によって平坦面と急斜面の複合体となっているが、これは図上で表現できず、一括されて平坦傾斜によって示されている。台地と平地を隔てる段丘崖(侵蝕崖)も計測にかからず、模式的に表現してある。上位の台地(一部は山麓地として表現)では8°～15°となっているところが多い。中位・低位の台地は3°～8°が多く、新期～沖積扇状地層におおわれる脇町北方、阿波町北方では3°未満のところがある。低地では扇状地部分では3°～8°(曾江谷川のみ3°未満)、氾濫原性低地で3°未満である。

四国山地では山腹斜面の方向による傾斜の差はみられない。高越山大起伏山地に急傾斜地が多く、その北麓の穴吹町上谷・山川町黒岩付近に台地性の緩斜地が広がっている。また、この西の延長である、穴吹町口山、貞光町端水、半田町蔭名にかけて地回り地性の緩斜地が広がっている。四国山地側は阿讃山地に比べて山腹を刻む開析谷が浅く、そのため平板状の山腹斜面となっているため、傾斜区分のくくりが大きいものが多い。

(香川県域 高 桑 糺)

(徳島県域 阿子島 功)

V 水系・谷密度

谷密度は水系図に5万分の1地形図の各辺を40等分した方眼を掛け、各方眼の周辺を切る水系の数を読み、4区画ずつ合計して区分した。

(香川県側)

本図幅北東端に近い大川郡長尾町と木田郡三木町の一部は吉野川支流の曾江谷川の流域にはいる。本図幅内の三木町の大部分は香東川の流域であり、香川郡塩江町の大部分は樺川・内場川など香東川支流の流域であるが、北西部の一部に綾川上流の流域が存在する。綾歌郡綾上町は綾川の流域、仲多度郡琴南町は明神川・前ノ川・葛籠野川など土器川上流部にある支流の流域となっている。

水系は地層の走向・傾斜や小断層などに支配され、地質の侵食されやすい部分を選択して分布する。一般に図幅北東部では北から南へ流れる吉野川支流の水系が目立ち、中部の三木町南部から塩江町東端部へ掛けては北流する香東川の支谷が並び、塩江町の内場川以西と琴南町の土器川流域では東北東～西南西方向の和泉層群の走向にほぼ平行する支谷が発達する。また、塩江町西端から綾上町南部に掛けての綾川上流部では北西へ向かって流れる小支谷群が並んでいる。

谷密度の高い地域は樺川以東の塩江町東部と三木町南部、綾川上流流域の塩江町西端から綾上町南部にまとまった分布がある。また内場川上流の塩江町大屋敷付近、内場池西岸に近い柿野付近、その北西方の炭西付近、土器川上流の琴南町の前ノ川流域、明神川流域の川奥南東などにも存在する。

谷密度の低い地域は内場川上流の塩江町小出川・真名屋敷付近、細井・松尾付近から竜王山山頂部東方、土器川上流の琴南町の寒風越付近、三頭越付近・鳥ヶ峯付近・中熊付近などに分布している。

(徳島県域)

水系密度は吉野川沿岸低地・台地においては 10° 以下、阿讃山地・四国山地では 10° ～ 40° である。阿讃山地・四国山地のそれぞれ南北幅4kmのE～H. zone, Q～T zoneについて水系密度の頻度分布を示せば次のようになる。

谷密度	阿讃山地(E-H zone)		四国山地(Q-T zone)	
	1 - 4	-(%)	-(%)	-(%)
	5 - 9	3 (3.8)	1 (1.3)	
	10 - 14	13 (16.3)	8 (10.0)	
	15 - 19	25 (31.3)	24 (30.0)	
	20 - 24	22 (27.5)	27 (33.8)	
	25 - 29	11 (13.8)	14 (17.5)	
	30 - 34	4 (5.0)	6 (7.5)	
	35 - 39	2 (2.5)	—	
	40 - 44	—	—	
	45 - 49	—	—	
	平均	22.1	20.9	

阿讃山地の水系は、南北を幹とする。ないしは東北-南東を幹とする樹枝状の平面形を示し、谷は深く切り込んでいる。ケスタ型の非対称の山稜をはきんで、水系密度も非対称をなし、緩斜面側(流れ盤、地すべりが多い)は水系が少なく、急斜面側(受け盤)は水系は短く、数が多い。

阿讃山地の南端の断層崖に発し、台地面を刻む水系は一様な平行模様を示す。断層崖下に台地がなく扇状地・崖錐が発達するところでは、伏流するため谷底平野部分で一線をなして消える。中位以高の台地面を刻む谷は密度が高いが、台地面が新規の扇状地におおわれるところ(脇町北東方、阿波町真福寺・柴生)では低地面と変らない。

四国山地では南北および東西の格子型をなす谷が深い。これに鋭角で交わる、山腹斜面を刻む低次の谷は傾斜は急であるが横断面形は浅く広い。

(香川県域 高 桑 糺)

(徳島県域 阿子島 功)

VI 土地利用現況

(香川県域)

土地利用現況図は国土地理院5万分の1地形図を基図とし、同2万5千分の1地形図、香川県農林部林務課の森林資源構成表(林班別)、香川県環境保健部自然保護課

の自然環境保全調査による植生図，高松営林署の事業図，各町作成の土地利用図などを現地調査によって補正して作成した。

田の分布は各河谷低地・河岸段丘に見られ，琴南町の大窪や谷田付近などでは山腹の緩斜面を利用している。

普通畑は一般に集落の周辺に集中しているが，塩江町の物井川・堀山・細井・松尾小出川，琴南町の中熊・雨島・株切・日開谷・横畑などにかなりまとまった分布がある。

果樹園は主として栗林が塩江町の中筋付近・小出川沿岸・物井川・堀山など，綾上町の上柏原付近などに小規模なものが散在しており，内場池西岸の城原付近には梅林もある。

茶園は塩江町の真名屋敷・大屋敷・別子・小出川東方・物井川などに分布している。

桑畑は琴南町沖野付近以外には見られず，人工草地は塩江町の城原付近・下貝・股付近・粉谷付近にあって乳牛を飼育し，琴南町の島ヶ峯の牧場は現在広い範囲が人工飼料の加工場に利用されている。

また，この地域の大部分は林地であるが，県境付近の国有林は植林が進み，ヒノキその他の針葉樹が造林されている。県営造林地は三木町西端や塩江町の嵯峨野北方・真名屋敷北方などにある。そのほか人工林は嵯峨野付近・馬瀬付近・真名屋敷付近・堀山から甲神へかけての一带・芦川付近・神羽から下切南方へかけての一带・水ヶ本付近・浅木原北方などの塩江町内に広く分布している。綾上町の人工林は国有林である前山付近，上柏原から南東方一帯の山腹にあり，琴南町では雨島付近・日開谷付近などにまとまった分布地が見られる。針葉樹林はアカマツ林が多く，塩江町では粉谷付近から木綿織付近・大屋敷付近を経て別子に至る地域に拡がり，真名屋敷北西方にある標高929.8m三角点のある山頂付近と上貝ノ股北方の標高834.4m三角点のある山頂付近・松尾付近などにも分布している。

アカマツ林は綾上町では柏原溪谷北岸にあり，琴南町では明神川東岸の寒風越に近い山腹一帯と同川南岸の久保谷西の斜面にも存在する。

広葉樹林ではヤマボウシ・ブナ林が大滝山付近，クヌギ・コナラ林が塩江町の樺川・下所・上俵付近，内場池西方および南方，神羽南方，琴南町の前ノ川付近・谷田付近・横畑付近などにある。

混交林は針葉樹と広葉樹の面積の差が10%未満の樹林であるが，三木町神山付近，

塩江町の葛蒲野付近から内場池東岸・物井川南岸にかけての一带、戸石北方から上貝ノ股を経て細井付近に至る一带、綾上町では上柏原の南東方、琴南町では中熊付近から葛籠野付近・大窪付近・川奥付近・沖野付近などの一带に広がっている。

また、宅地・集落が比較的密集しているのは塩江町の塩江温泉付近、内場池南岸に近い檜付近などである。

(徳島県域)

土地利用現況図は国土地理院 5 万分の 1 地形図(昭和 48 年修正, 50 年発行)を基図として、徳島県川島・脇町・池田の各農林事務所の協力を得て作成した。

水田の分布は吉野川流域と吉野川にそそぐ中小河川谷低地や、洪積台地の水利に恵まれた所にみられる。

普通畑は水利の不便な山地の傾斜のゆるやかな所に多くみられる。

果樹園については、阿波町ではブドウ・山川町では国営パイロット事業によるミカン・美馬郡各町や三野町ではハッサクが多い。なお、標高のやや高い所にはクリがみられる。

桑園については、吉野川沿岸や洪積台地にかなり分布する。

茶園は少ないが、脇町の金川・半田町大柱にみられる。

草地は吉野川の河川敷や美馬町の中野に、竹藪や林地から造成したものがある。

林地は、この地域の大部分をしめているが、人工造林地は少なく、天然のアカマツが全体をしめている。

人工造林地は、美馬町・脇町・山川町・阿波町などに分布しているが、大部分は県有林・県行造林・公団造林・林業公社などの造林地であり、私有林の造林はほとんど進んでいない。主な造林樹種はスギ・ヒノキ・マツなどの針葉樹である。

針葉樹林にはアカマツが多く、この地域の林地の尾根にそって広く分布している。

広葉樹林は、美馬町・脇町の急峻な谷筋に分布しており、主要樹種は、カシ類・ツバキ・ヒサカキなどである。

混交林は、この地域の林地中腹より下方に広く分布している。しかし、急峻な所では、尾根近くまで分布している。

また、宅地・集落が比較的密集しているのは、吉野川沿岸の各町(旧町村)の役場・学校等の公共施設の所在地周辺である。

Ⅶ 防 災

(香川県域)

防災図には人工のものを含む崖、山崩れ地点、地すべり危険地区、土石流危険箇所、砂防指定地、流路工、主要貯水地、砂防堰堤工、谷止工、主要な河床勾配の遷移点、雨量観測所、流量計設置箇所などを図示してある。

本地域の崖は下位台地の段丘崖のほか、河川の攻斜面下の崖が谷底の各所にみられ、人工の崖は河道に沿う道路や山腹を蛇行して登る道路に沿って分布する。

山崩れは崩壊面積 0.1 ha 以上のものを図示し、町別に番号を付け、その位置・標高・面積・崩壊方向を表 1 に示した。とくに山崩れが多いのは内場川・小出川・明神川などの河谷の中腹で、物井川・水ケ本などでは山頂に近い所が崩れている。町別の山崩れ地点は香川県塩江町 18 箇所、綾歌郡綾上町 2 箇所、仲多度郡琴南町 3 箇所である。標高別では 300 m 以上 400 m 未満が 2 箇所、400 m 以上 500 m 未満が 1 箇所、500 m 以上 600 m 未満が 6 箇所、600 m 以上 700 m 未満が 5 箇所、700 m 以上 800 m 未満が 7 箇所、800 m 以上 900 m 未満が 2 箇所である。崩壊面積では 1 ha 未満が 14 箇所、1 ha 以上 5 ha 未満が 3 箇所、5 ha 以上 10 ha 未満が 5 箇所、10.4 ha が 1 箇所である。崩壊方向では南南東と北東が各 4 箇所、北北西が 3 箇所、北・北北東・東・南西が各 2 箇所、東北東・東南東・南南西・南が各 1 箇所である。

地すべり危険地区は表 2 に示したが、塩江町に 24 箇所、琴南町に 6 箇所あり、とくに大きい面積の地区は小出川や明神川沿岸に多い。上端の標高を見ると、200 m 以上 300 m 未満 1 箇所、300 m 以上 400 m 未満 5 箇所、400 m 以上 500 m 未満 4 箇所、500 m 以上 600 m 未満 5 箇所、600 m 以上 700 m 未満 3 箇所、700 m 以上 800 m 未満 8 箇所、800 m 以上 900 m 未満 3 箇所、900 m 1 箇所となっている。面積別では 2 ha 以上 5 ha 未満 16 箇所、5 ha 以上 10 ha 未満 3 箇所、10 ha 以上 20 ha 未満 5 箇所、20 ha 以上 40 ha 未満 4 箇所、40 ha 以上では 52.4 ha と 60.2 ha の 2 箇所がある。崩壊方向では南東と南が各 6 箇所、東北東と西が各 3 箇所、南南東・南南西・北西・北北西が各 1 箇所、南西～北西が 1 箇所である。

土石流危険箇所は三木町南部に 2 箇所、樺川の谷に 7 箇所が集中しているほか、塩

江温泉付近・柿野・城原・荒小向・檜・別子など塩江町内に多く、琴南町では横畑南東の明神川東岸に存在する。

砂防指定地は香東川本流の塩江温泉付近、樺川沿岸で木綿織から下流の中筋付近まで、内場川沿岸で上貝ノ股から焼堂付近まで、甲神川沿岸で松尾から下流部、物井川沿岸で海拔500m以下付近から下流部、小出川沿岸で別子付近、明神川沿岸で沖野南方、葛籠野付近などに分布している。

流路工は塩江町芦川の西方にあり、主要貯池には貯水量740万 m^3 の多目的ダム内場池が塩江町内場に造成されている。

砂防堰堤工は樺川・小出川・甲神川・内場川・明神川・前ノ川・葛籠野川・中熊川などのほか柏原溪谷にも見られ、谷止工はこれらの河川沿岸の山腹に刻まれた小谷にも広く分布する。

河川勾配の遷移点は人工のものを除き、とくに顕著なものに止めた。

雨量観測所は塩江町の中筋と一ツ内および内場池管理事務所にあり、自記流量計は内場池南方にある。

表1 山崩れの表

番号	位置	標高(m)	面積(ha)	崩壊方向
	香川県塩江町			
1	粉谷	640	6.15	南南東
2	木綿織	720	0.3	東南東
3	大屋敷	720	8.8	南南西
4	小出川	640	10.4	南西
5	小出川南岸	450	0.15	北東
6	物井川	740	3.9	南南東
7	細井南東方	580	0.5	北北西
8	細井南方	710	0.75	北北東
9	堀山西方	710	7.0	北東
10	日ヶ原	380	2.1	南南東
11	柿野	350	0.5	東南東

番号	位置	標高(m)	面積(ha)	崩壊方向
1 2	柿野南方	6 6 0	6.8	北東
1 3	上貝ノ股	5 6 0	4.5	南
1 4	浅木原東方	5 5 0	0.1	北北西
1 5	浅木原南方	6 1 0	0.1 4	東
1 6	浅木原北方	7 2 0	5.4	北東
1 7	水ケ本南方	8 8 0	7.3	北北西
1 8	水ケ本	5 9 0	0.1	東

	綾歌郡綾上町			
1	上柏原南東方	5 2 0	0.1	北
2	上柏原南南東	6 1 0	0.1	北
	仲多度郡琴南町			
1	雨島南方	7 6 0	0.1	北北東
2	浅木原東方	8 7 0	0.4	南西
3	沖野南方	5 6 0	0.1	東北東

表2 地すべり危険地区の表

番号	位置	標高(m)	面積(ha)	崩壊方向
	香川県塩江町			
①	菖蒲野北	2 8 0 ~ 2 6 0	3.5	南西
②	菖蒲野南	3 2 0 ~ 2 6 0	4.2	西北西
③	田中北	3 3 0 ~ 2 6 0	4.2	西
④	田中南	3 5 0 ~ 2 8 0	4.1	北西
⑤	下所	5 5 0 ~ 4 4 0	4.5	西
⑥	嵯峨野	6 2 0 ~ 4 8 0	2.2	南南西
⑦	木綿織	7 6 0 ~ 6 6 0	2.5	南東

番号	位置	標高 (m)	面積(ha)	崩壊方向
⑧	馬瀬	780~490	9.2	南東
⑨	真名屋敷	840~660	10.5	南
⑩	大屋敷	780~620	17.2	南
⑪	別子	680~540	5.5	南
⑫	小出川	700~480	21.5	南西
⑬	上西南	760~650	2.5	南南西
⑭	上西北	580~350	17.2	北北西
⑮	甲神	540~440	5.5	東北東
⑯	細井	540~440	2.5	東北東
⑰	堀山	560~380	3.5	東北東
⑱	檜	380~300	4.5	西
⑲	柿野	380~330	2.5	北東
⑳	炭谷	480~420	2.5	北
㉑	下貝ノ股	420~340	2.3	南
㉒	上貝ノ股	620~460	2.5	南南東
㉓	下切	450~360	2.5	南
㉔	戸石	450~370	16.6	南東
仲多度郡琴南町				
①	雨島	760~500	28.5	南東
②	沖野・日開谷	740~560	35.2	南東
③	株切	840~660	10.3	南
④	横畑	840~580	26.4	南東
⑤	大窪	770~530	52.4	南南東
⑥	葛籠野	900~400	60.2	南西~北西

(徳島県域)

当地域の讃岐山脈ぞいは、急流河川で土砂の流出が多く、河川は天井川を形成している。また、南部の四国山地は地すべり地帯が多く分布し、山地の崩壊や洪水など災害発生の可能性が大きい。特に吉野川ぞいの低位部は遊水地帯として、ひんぱつする洪水によって地域住民の生命財産の安全が脅かされている。

なお、山崩れ地すべり危険地区については別表3、4のとおり。

表3 山崩れの表

番号	位 置	標高(m)	面積(ha)	崩壊の方向
24	美馬郡美馬町字野田の井	500	0.10	南東
25	” ” 字惣後	540	0.15	南南東
26	” ” 字入倉	540	0.18	”
27	” ” 字葦草	260	0.15	西北西
28	” ” 字大寄	640	0.18	南南東
29	” 脇町字栗野	680	0.25	南
30	” ” 字横倉	620	0.13	南東
31	” ” 字中八	520	0.16	南
32	” ” 字津山	360	0.20	南
33	” ” 字西俣名	600	0.21	北北東
34	” ” 字東大谷	410	0.18	北東
35	” ” 字梨子ノ木	500	0.22	西
36	” ” 字東田上	260	0.20	東南東
37	” ” 字尾崎	380	0.88	南南東
38	” ” 字白木	350	0.16	”
39	” ” 字 ”	380	0.17	南西
40	” ” 字 ”	250	0.10	”
41	阿波郡阿波町字真重	520	0.11	東南東
42	” ” 字大久保	310	0.68	東
43	” ” ”	280	0.19	”

番号	位 置	標高(m)	面積(ha)	崩壊の方向
4 4	阿波郡阿波町字谷口	2 1 0	0.1 1	東北東
4 5	美馬郡半田町字蔭名	3 8 0	0.7 8	北
4 6	“ 貞光町字宅熊	3 3 0	0.1 6	北西
4 7	“ “ 字木屋外	2 5 0	0.2 0	“
4 8	“ “ 字柴内	3 8 0	0.1 6	北
4 9	“ “ 字長木	3 5 0	0.1 5	南南西
5 0	“ “ 字広谷影	3 3 0	0.2 0	北
5 1	“ “ 字平野	2 8 0	1.2 8	“
5 2	麻植郡山川町字奥の井	6 0 0	0.1 3	西
5 3	“ “ “	3 9 0	0.1 2	北北西

表 4 地すべり危険地区の表

番号	位 置	標 高 (m)	面 積 (ha)	崩壊方向
3 1	美馬郡美馬町字夏蔵	8 0 0～3 5 0	3 5.7 0	南西
3 2	“ “ 字中野	8 0 0～4 9 0	2 0.3 0	南東
3 3	“ “ 字夏弥喜	8 1 0～4 0 0	4 2.4 0	南南西
3 4	“ “ 字野田ノ井	7 9 0～5 6 0	7 8.4 2	北東
3 5	“ “ 字藤宇	8 0 0～5 1 0	8 1.9 0	南東
3 6	“ “ 字平野	5 6 0～3 0 0	4 2.3 0	北東
3 7	“ “ 字高尾	7 2 0～2 2 0	3 9.4 0	西南西
3 8	“ “ 字吉水	5 2 0～1 8 0	3 1.5 0	南東
3 9	“ “ 字猿坂	4 8 0～1 2 0	2 4.2 0	東南東
4 0	“ “ 字丈寄	7 5 0～3 0 0	1 0 5.8 0	“
4 1	“ “ 字清田	6 2 0～2 6 0	5 0.6 0	南南東
4 2	“ “ 字入倉	6 6 0～3 6 0	1 0.8 6	“
4 3	“ “ 字切久保	4 2 0～2 0 0	3 2.7 0	北東
4 4	“ “ 字大久保	4 4 0～2 0 0	4 2.4 0	東北東

番号	位 置	標 高 (m)	面 積 (ha)	崩壊方向
4 5	美馬郡美馬町字蕨草	2 8 0 ~ 1 0 0	5 6.7 8	東
4 6	“ 脇町字平帽子	7 4 0 ~ 3 2 0	1 1.5 0	南
4 7	“ “ 字上中野	7 0 0 ~ 2 6 0	4 2.3 0	南南東
4 8	“ “ 下中野	6 8 0 ~ 2 0 0	3 7.5 0	南
4 9	“ “ 字河原柴	7 2 0 ~ 3 1 0	7 0.3 0	南南東
5 0	“ “ 字横倉	7 2 0 ~ 3 6 0	7 0.0 0	東北東
5 1	“ “ 字芋穴	7 0 0 ~ 4 6 0	7 6.7 6	南
5 2	“ “ 字梨子ノ木	5 0 0 ~ 2 3 0	3 0.1 0	東南東
5 3	“ “ 字暮畑	6 0 0 ~ 3 8 0	7.0 6	南
5 4	“ “ 字東大谷	6 1 0 ~ 2 8 0	9 2.5 0	南南西
5 5	“ “ 字尾崎	5 4 0 ~ 3 0 0	8 4.7 0	東北東
5 6	“ “ 字段	4 0 0 ~ 1 0 0	6 3.2 9	東南東
5 7	“ “ 字東田上	2 0 0 ~ 1 0 0	1 0.2 0	南東
5 8	“ “ 字西赤谷	4 7 0 ~ 2 1 0	3 0.8 0	南東
5 9	“ “ 字西赤谷	5 1 0 ~ 1 6 0	3 5.6 0	北東
6 0	“ “ 字西赤谷	4 8 0 ~ 1 0 0	1 6.6 0	東
6 1	“ “ 字東俣名	5 1 0 ~ 2 0 0	2 3.8 0	“
6 2	“ “ 字東赤谷名	6 8 0 ~ 1 8 0	3 8.8 0	東南東
6 3	“ “ 字冬畑	4 8 0 ~ 1 8 0	5 6.1 8	北
6 4	阿波郡阿波町字引地	6 2 0 ~ 3 5 0	2 3.2 0	東
6 5	“ “ 字亀底	5 9 0 ~ 3 0 0	7 8.8 9	東南東
6 6	“ “ 字北久保	4 6 0 ~ 2 0 0	3 1.2 9	東
6 7	“ “ 字大久保	4 6 0 ~ 2 0 0	3 2.1 2	東北東
6 8	“ “ 字棚ヶ窪	4 0 0 ~ 1 8 0	8 7.7 0	東南東
6 9	美馬郡半田町字日浦	4 0 0 ~ 1 8 0	1 1 1.7 5	南東
7 0	字蔭名	5 8 0 ~ 1 8 0	1 8 7.0 0	北北東
7 1	字木ノ内	2 8 0 ~ 9 0	1 2.4 0	西北西
7 2	大字東大久保	2 6 0 ~ 1 0 0	3 9.8 1	南西
7 3	字西大久保	2 1 0 ~ 9 0	5.5 0	東北東

番号	位 置	標 高 (m)	面 積 (ha)	崩壊方向
74	美馬郡半田町字平良石	380~150	48.95	東北東
75	" " 字曾我谷	460~190	27.90	東
76	" " 字下竹	420~190	56.10	西北西
77	" " 字黒石	380~180	62.30	"
78	" " 字曾我	440~270	11.70	北西
79	" " 字鳴谷	440~290	51.75	"
80	" 貞光町字浦山	320~ 90	22.45	東
81	" " 大字浦山	400~ 80	44.56	東
82	" " 字引地	400~ 70	23.70	北東
83	" " 大字竹屋敷	300~180	39.93	"
84	" " 字宅熊	370~100	61.33	北
85	" " 字木屋外	370~140	61.60	"
86	" " 字宮内	580~ 80	88.90	西
87	" " 字岡	420~360	52.76	"
88	" " 字僧地	380~120	37.06	西南西
89	" " 字柴内	650~360	199.25	北北西
90	" " 字長木	730~190	342.58	南西
91	" " 字端山	410~100	27.60	"
92	" " 字端山	370~180	10.14	南南東
93	" " 字平野	460~200	129.60	北
94	" " 字家賀道下	380~120	62.40	北
95	" " 字家賀道上	440~380	8.00 (全体48.84)	"
96	" 穴吹町字三島	230~ 60	66.20	"
97	" " 字三島	300~ 80	40.50	"
98	" " 字大重	500~300	50.00	北西
99	" " 字西山	580~260	129.00	南
100	" " 字口山	560~240	87.06	東
101	" " 字淵名	500~280	20.68	北東
102	" " 字口山	500~220	15.81	東

番号	位 置	標 高 (m)	面 積 (ha)	崩壊方向
103	美馬郡穴吹町字口山	280～80	24.12	北北西
104	“ “ 字口山	200～60	36.80	南東
105	“ “ 字穴吹	220～60	54.10	北西
106	“ “ 字口山	320～60	123.80	西北西
107	“ “ 字 “	660～160	83.80	南南西
108	“ “ 字 “	350～80	7.40	南南東
109	“ “ 字 “	450～180	16.49	北
110	“ “ 字古宮	220～140	(全体23.33)	北北西
111	“ “ 字穴吹	360～60	38.90	“
112	“ “ 字口山	240～65	11.97	北西
113	“ “ 字新山	300～140	29.53	南西
114	麻植郡山川町字井傍	260～40	54.30	北
115	“ “ 字山路	180～40	23.00	北東
116	“ “ 字大内	420～190	44.60	東
117	“ “ 字楠根地	540～280	54.80	東南東
118	“ “ 字奥の井	940～400	80.80	北東
119	“ “ 字安楽寺	120～30	9.26	北
120	“ “ 字丸山	240～60	98.00	北西
121	“ “ 字旗見	190～40	60.60	南西
122	“ “ 字迎坂	200～80	17.00	南西
123	“ “ 字皆瀬	520～200	168.99	北北東
124	“ “ 字榎谷	400～140	16.39	北北西
125	“ “ 字西の峯	840～440	3.000 (全体49.17)	南東
126	“ 美郷村字高野尾	260～120	1.000 (全体26.20)	北西
127	“ “ 字品野	600～450	1.000 (全体35.61)	東

VIII 開発規制

(香川県域)

開発規制図には保安林・鳥獣保護区・休猟区・銃猟禁止区域・国有保・自然保護区・天然記念物・名勝・史跡などを図示してある。

土砂流出・土砂崩壊防止保安林は各所に散在しており、三木町神山の堂ヶ平南部、塩江町の安原上東の下所付近、塩江温泉南方、同町上西の小出川付近・細井付近・一ツ内付近、内場池西方の柿野付近・炭谷付近・炭谷北方、安原下の神羽付近、同町内で綾川上流沿岸の水ヶ本付近・戸石付近・綾上町の柏原溪谷南岸地域などにある。

水源 養保安林の分布は広い範囲にまとまった分布を示し、三木町南部の国有林が全域これに入るほか、塩江町では粉谷東方から大滝山山頂付近を経て相栗峠東方山頂に至る小出川南岸の国有林もこの保安林である。また、竜王山北側斜面で東は松尾付近まで、北方は内場川上流南岸に至る国有林と、綾上町では柏原溪谷北岸一帯の国有林、琴南町では竜王山北西斜面で浅木原・日開谷に至り、県境の山頂部をつたって寒風越を過ぎ、明神川南東岸の勝浦付近から三頭越・奈良ノ木南方の山頂部へ続く国有林も水源 養保安林である。水源 養保安林はこのほか、塩江町で嵯峨野の北方および東方、大屋敷から真名屋敷・標高929.8mの三角点・小出川北方・物井川・焼堂・石打に至る一帯、小出川南西岸から甲神・相栗峠を含み松尾南方の尾根に至る一帯、細井・堀山付近から内場川南岸に至る一帯、日ノ宗・上貝ノ股・浅木原を南限とし、荒小向南方・738m独立標高点・834.4m三角点・867m独立標高点付近を北限とし、西方は琴南町との町界に至る一帯、綾上町では柏原溪谷南方から琴南町に続く一帯、琴南町では前ノ川の流域で雨島付近を除く一帯から南限は浅木原・日開谷沖野・株切・三角に至り、葛籠野付近を除く地域に広く存在している。

国有林は前述のほか、綾上町南端に近い小範囲にも分布する。

鳥獣保護区は塩江町の大滝山山頂から西方相栗峠東方に至る小出川南岸地区の国有林がその大部分を占める。

休猟区はその北側にあって、東限は木綿織を経て樺川の谷を通る町道樺川線に沿って、県道六吹塩江線・国道193号線に達する。北限は国道193号で、西限は塩江橋から県道美馬塩江線を南下して、一ツ内橋から南東へ小出川に沿い、大屋敷橋を経ている前述の鳥獣保護区との境界に達する。

銃猟禁止区域は塩江町上西の細井にあり、その南限は国有林に接している。

国立公園・県立公園はないが、塩江町の小出川南岸にある大滝山一帯には県民いこの森が遊歩道や各種の施設を備えているのである。

県指定の天然記念物には琴南町川東の杉王神社のスギがあるが、町指定の史跡・名勝・自然保護区などとともに次表に示してある。

史跡・名勝・天然記念物・遺跡などの表

番号	種 別	名 勝	所在地
香川県塩江町			
1	城 址	柿野城址	柿 野
綾歌郡綾上町			
1	古 塚	姫 塚	粉 所 東
2	町 名 勝	柏原溪谷	粉 所
3	町 史 跡	弘 法 庵	上 柏 原
仲多度郡琴南町			
1	県天然記念物	杉王神社のスギ	川 東
2	町自然保護区	美霞洞溪	三 角
3	”	川上神社社	日 開 谷
4	”	竜王神社社	前の川谷

また、本図幅内の綾上町域の大部分とこれに接する塩江町の一部は自然休養村の範囲に入っている。

(徳島県域)

(1) 都道府県立自然公園(普通地域)

名 称 土柱高越山県立自然公園
 面 積 1,586 ha
 指 定 42年1月1日
 区 域 阿波町, 山川町, 脇町, 穴吹町

資料：徳島国環境課

(2) 保安林

徳島県側

町村別保安林別に示せば次表のとおり。

区分 町村名	総 数		水源か ん養林	土砂流出 防止林	土砂崩壊 防止林	保健林	水 害 防備林	風致林	その他
	箇所数	面 積							
三野町	1	4	—	4	—	—	—	—	
美馬町	121	741	430	300	1	—	10	—	
脇町	169	1,769	997	745	3	—	23	1	
阿波町	49	479	134	345	—	—	—	—	
市場町	10	398	370	28	—	—	—	—	
三加茂町	—	—	—	—	—	—	—	—	
半田町	15	45	—	38	—	—	7	—	
貞光町	23	26	—	16	10	—	—	—	
穴吹町	11	37	—	30	3	—	4	—	
山川町	13	25	—	22	—	—	2	1	
美郷町	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	412	3,524	1,931	1,528	17	—	46	2	

資料：徳島県林政課

(3) 砂防指定地

防災図のとおり。

(4) 地すべり防止区域

防災図のとおり。

(5) 鳥獣保護区

名 勝	面 積	指 定 期 間	附 記
大滝山頂上	300 ha	自昭和49年11月1日 至 " 59年10月31日	
高越山頂上	762	" 50 " 10 " 21 "	
土柱山頂上	400	" 60 " 10 " 20 "	
		" 46 " 11 " 1 "	
		" 54 " 10 " 24 "	
		" 51 " 10 " 21 "	
		" 61 " 10 " 31 "	

資料：徳島県環境課

(6) 国 有 林

国有林は少なく、美馬郡美馬町入倉で79haがある。

(7) 史跡, 名勝, 天然記念物

(a) 埋蔵文化財包蔵地

№	名 称	所 在 地
1	重清城跡	美馬郡美馬町城
2	大国魂古墳	” ” ”
3	八幡古墳1号	” ” 八幡
4	平野古墳	” ” 平野
5	海原古墳	” ” 荒川
6	荒川古墳	” ” ”
7	鍵掛古墳	” ” 滝の宮
8	立光寺廃寺跡	” ” 銀杏下
9	箱式石棺	” ” 鍵掛
10	滝の宮経塚	” ” 滝の宮148
11	真鍋塚	” ” 郡里重宗
12	柳塚	” ” 郡里坊僧
13	太鼓塚	” ” ”
14	坊僧跡	” ” 坊僧
15	高畑跡	” ” 高畑
16	八幡古墳	” 脇町岩倉宮の下
17	上ノ原古墳	” ” 岩倉国中
18	岩倉城跡	” ” 岩倉田上
19	脇城跡	” ” 西城山
20	東城山集落跡	” ” 東城山
21	拝原東古墳2号	” ” ”
22	北原古墳	” ” 江原拝原
23	拝原東古墳	” ” ”
24	拝原南古墳	” ” ”

No	名 称	所 在 地
25	江原古量敷経塚	美馬郡脇町江原東又
26	北岡東古墳	阿波郡阿波町字北岡 1 1 5 - 2
27	真光寺	" " " 7
28	西林城	" " 字赤坂 1 5 9 - 1
29	医王寺	" " 字医王子 4 6
30	桜の岡古墳	" " 字桜の岡 3 8 5
31	小倉正広の塚	" " 字小倉正広 7 8 4 - 2
32	北岡西古墳	" " 字北岡 7 4 - 2
33	西の山古墳	美馬郡貞光町西の山
34	江の脇古墳	" " 江の脇
35	小島西古墳 1 号	" 穴吹町小島山の神
36	" 2号	" " "
37	小島東古墳	" " "
38	三谷古墳	" " 三谷
39	尾山古墳	" " 口山尾山
40	戒古墳	" " 戒
41	箱式石棺	" " "
42	種穂山古墳(1)	麻植郡山川町鼓山
43	" (2)	" " 鼓
44	塚穴古墳 (1)	" " 大宗
45	" (2)	" " "
46	住吉古墳	" " 住吉 1 4 5
47	無縁大師塚	" " 西原 5 9
48	地古墳	" " 地青木
49	西原古墳(2)	" " 西原 1 1 3 - 2
50	麦原古墳	" " 麦原
51	西原古墳	" " 西の原 5 1
52	青木古墳	" " 忌部青木
53	西原古墳(1)	" " 西原 8 9

(b) 指定文化財

№	名 称	区分	指定年月日	所 在 地
1	別所の大クス	県	昭和9年5月1日	美馬郡脇町字政所 2194-1
2	阿波の土柱	国		阿波郡阿波町北山，桜岡
3	滝の宮経塚穴	県		美馬郡美馬町字滝の宮148
4	段の塚穴	国		“ “ 坊僧363-366
5	北岡古墳(東)	県		阿波郡阿波町北岡
6	“ (西)	県		“ “

Ⅸ 標高区分

(香川県域)

脇町図幅の香川県内における最高点は香川・徳島の県境にある標高1,059.9mの竜王山山頂である。この付近に標高1,000m以上の地域が分布している。

標高800m以上1,000m未満の地域はその周縁にあり、県境の山頂を連ねて寒風越・三頭越から琴南町奈良ノ木南方の880.8m三角点付近まで続き、竜王山頂から東北方へ延長して塩江町細井付近の900.3m三角点へ連続し、一方では竜王山頂から北西へ延長して塩江町と琴南町の境界を成し塩江町水ケ本南東方の867m標高付近に至っている。また、同山稜の982.1m三角点付近から南西に延長し、琴南町沖野北方の938.6m標高点、株切西方の939.6m三角点、島ヶ峯牧場を経て896.2m標高点付近に連続する。さらに、塩江町と徳島県美馬郡脇町との県境にある大滝山(946m)付近の山頂部もこの地域に入り、大滝山から北西に延長して塩江町の真名屋敷付近にある873m標高点と929.8m三角点から小出川付近の893m標高点付近へ続く。また、三木町南端の881.1m三角点周辺や塩江町上貝ノ股北方の834.4m三角点付近にもこの地域が分布している。

標高600m以上800m未満の地域は前述の地域の周辺に拡がり、三木町南部から塩江町の嵯峨野・木綿織・大屋敷・真名屋敷・小出川・物井川・松尾・細井・琴南町の雨島・浅木原・日開谷・横畑・沖野・株切・葛籠野・奈良ノ木などの集落付近一

および綾上町と琴南町の町界にある798.1m三角点・776m標高点・700.3m標高点を連ねた山稜付近もこの地域になっている。また、綾上町の前山山頂(643.1m)付近にもこの地域がある。

標高400m以上600m未満の地域は三木町南部から塩江町の安原上東・粉谷・馬瀬・石打・物井川・小出川沿岸、甲神・堀山・一ツ内・浅木原・上貝ノ股・日ケ宗・柿野・炭谷・安原下・水ケ本、綾上町の前山付近・柏原溪谷の北方と南方・琴南町の前ノ川沿岸・中熊・明神川沿岸などに広く分布している。

標高200m以上400m未満の地域は香東川・綾川沿岸に拡がり、塩江町の野・菖蒲野・北内・田中・中筋・樺川・下所・上俵・塩江・池ノ谷・内場・檜・芦川・城原・荒小向・焼堂・下貝ノ股・神羽・下切・戸石、綾上町の柏原溪谷などの一帯に分布する。

また、本図幅の香川県側には標高0m以上100m未満の地域は存在していない。
(徳島県域)

吉野川低地(高度30~60m)をはさんで、阿讃山脈の最高所は竜王山の1,060m、四国山地のそれは、高越山南方の1,143mである。阿讃山脈の分水界は、背面を東に向けるケスタの軸部から北翼の頂部を連ねた部分に相当し、800~1,000mの高度を維持する。曾江谷川の横谷を境として東部では、山脈の最高所と分水界の位置にずれを生じ、最高所の高度も西に比べ約200m低下する。ケスタの南翼は高度500~750mで、軸部に比べ200~500m低下している。一般に400~700mに緩斜面が多く認められ、集落の立地が目立つ。吉野川南岸では、500~800mを最高所とする山地が続く。これは南方の脊梁部の前山的存在で、三波川帯の点紋帯に属し、すぐ南の無点紋帯に比べ300~500m高度を減じている。ただし、高越山は例外で無点紋帯との高度差はほとんどない。高越山周辺では比較的急斜部が目立ち、特定の高度が広く分布することもない。西方では400~700mの比較的緩やかな稜線が目立つ。300~500mの部分も広いが、細かく開析されている。吉野川をはさむ曾江谷川の横谷と高越山は全く対照的である。吉野川の低地は、図幅中約25kmの間に約30mの落差を示し、その勾配は1,000分の1.2となる。兩岸の台地は河床より150m以内の比高を有しているため、高度200m以下の部分が広がり、とくに北岸で顕著である。

(香川県域 高桑 糺)

(徳島県域 寺戸 恒夫)

1977年3月 印刷発行

阿讃山地開発地域

土地分類基本調査

脇 町

編集発行

香川県企画部企画調整課

香川県高松市番町四丁目1番10号

徳島県農林水産部耕地課

徳島市万代町1の1

印刷

(説明) 松下印刷

徳島市南田宮2丁目107

(地図) 内外地図株式会社

東京都千代田区神田小川町3-22